宮崎県文化財調査報告書

第 37 集

平成6年2月

宮崎県教育委員会

宮崎県文化財調査報告書

第 37 集

平成6年2月

宮崎県教育委員会

序

宮崎県教育委員会においては、文化財の保護及び文化財の指定のための調査や、土木工事等の諸開発事業に伴う遺跡の緊急発掘調査を実施し、その報告書を刊行して、文化財の保護・活用に対する理解をいただいているところであります。

このたびは、昭和56年度調査の佐土原町土器田横穴墓、平成2年度の国富町餅田遺跡、平成3年度の高鍋町高鍋城下遺跡、平成4年度の国富町林ノ王遺跡の計4遺跡の発掘調査について収録しております。

本書が、社会教育・学校教育の場において広く活用され、あわせて学術研究上の資料として役立つことを期待いたします。

なお、調査に際してご協力をいただいた地元の方々、及び市町村教育委員会の方々に深甚の謝意を表します。

平成6年2月

宮崎県教育委員会
教育長　髙　山　義　孝

例　　言

1．この報告書は、宮崎県教育委員会が主体となって実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を収録したものである。

2．掲載している遺跡名・所在地・調査機関・執筆者は下記のとおりである。

3．本報告書の編集は、宮崎県教育庁文化課が行った。

記

遺跡名	所在地	調査期間	調査担当	執筆者
土器田東1号・東2号横穴墓前庭部	佐土原町	昭和57年3月8日 ～ 昭和57月3月26日	岩永哲夫 永友良典	永友良典
餅田遺跡	国富町	平成2年9月21日 ～ 平成2年10月17日	東　憲章	東　憲章
高鍋城下遺跡	高鍋町	平成4年3月4日 ～ 平成4年3月18日	長友郁子	長友郁子
林ノ王遺跡	国富町	平成4年8月26日 ～ 平成4年9月6日	飯田博之	飯田博之

総　目　次

1．土器田東1号・東2号横穴墓前庭部調査報告 …… 1

2．餅田遺跡調査報告 …… 13

3．高鍋城下遺跡調査報告 …… 23

4．林ノ王遺跡調査報告 …… 29

付1．平成4年度埋蔵文化財発掘調査一覧 …… 41

付2．平成4年度宮崎県市町村教育委員会発行埋蔵文化財調査報告書一覧 …… 48

土器田東1号・東2号
横穴墓前庭部

―遺物編―

例　　言

1．本報告は、昭和55年に佐土原町教育委員会が発掘調査した土器田東１号・東２号横穴墓の保存措置に伴い、宮崎県教育委員会が実施した前庭部の補足調査の報告書である。

2．調査は昭和57年３月８日から３月26日にかけて県教育庁文化課主任主事岩永哲夫、同主事永友良典の担当で実施した。

3．本報告書の執筆・編集は永友が行った。

4．出土品は宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターに保管している。

本　文　目　次

1．はじめに …… 2
2．東1号横穴墓前庭部 …… 3
(1) 遺構
(2) 遺物
3．東2号横穴墓前庭部 …… 6
(1) 遺構
(2) 遺物
4．まとめ …… 9

挿　図　目　次

第1図　位置図 …… 2
第2図　東1号・東2号横穴墓前庭部実測図 …… 4
第3図　東1号横穴墓前庭部出土遺物実測図 …… 5
第4図　東2号横穴墓前庭部出土遺物実測図 …… 7
第5図　東1号・東2号横穴墓前庭部出土遺物実測図 …… 8

図　版　目　次

図版1　東1号・東2号横穴墓前庭部出土土器 …… 10
図版2　東1号・東2号横穴墓前庭部出土鉄製品 …… 11

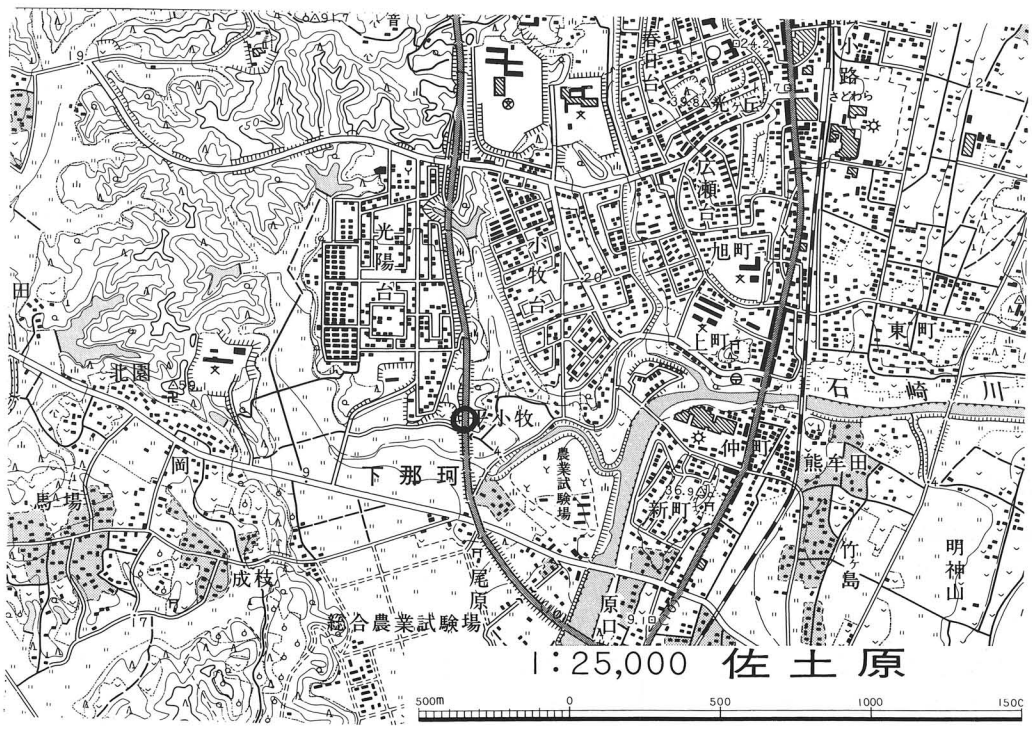
1．はじめに

土器田東１号・東２号横穴墓は宮崎郡佐土原町大字下那珂に所在する土器田横穴墓群の東部に位置する。土器田横穴墓群は佐土原町市街地の西側に広がる丘陵の南麓部一帯に分布する横穴墓群で谷を挟んで東西２支群に分かれる。現在までに３次７基の横穴墓の調査が行われており特に東１号横穴墓は装飾横穴墓として注目されている。

このうち東１号・東２号横穴墓は昭和55年11月から12月に一般国道10号佐土原バイパスの建設工事に伴い佐土原町教育委員会が発掘調査を行っている。その際、東１号横穴墓の玄室から線刻壁画等が発見された。そこで、保存措置をとることになり、昭和57年３月に色彩顔料調査等の補足調査が行われ、前庭部の調査もあわせて実施された。東１号横穴墓の線刻壁画の保存措置は昭和58年度に壁面切り取りとレプリカ作成が行われた。

今回の報告は前庭部調査で出土した遺物を中心にしたものである。なお、東１号・東２号横穴墓の玄室の調査報告は文献１、東１号・東２号横穴墓の前庭部の遺構の報告は文献２にそれぞれ記載されている。

（注）文献１　「一般国道10号佐土原バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書（土器田横穴古墳）」
佐土原町教育委員会　1981．3



第１図　土器田東横穴墓位置図

文献２　『佐土原町文化財調査報告書第３集』「一般国道10号佐土原バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書　土器田東横穴墓（２）－東１号横穴墓保存処置報告－」
佐土原町教育委員会　1984. 2

２．東１号横穴墓（第２図、第３図、第４図）

東１号横穴墓は玄室床面形が長方形を呈する妻入り寄せ棟造りの横穴墓である。玄室の床面規模は奥行4.60ｍ、奥壁幅3.85ｍ、袖部幅3.33ｍ、床面から天井までの高さは最高で2.40ｍを測る。羨道部は長さ2.60ｍ、幅1.55ｍ～1.60ｍ、高さ1.80ｍを測り羨門部で２列の川原石の閉塞列が確認された。玄室天井部の四方には幅10㎝～12㎝の工具痕が残る。奥壁天井部に馬、鳥（魚類）、人物と思われる線刻画が描かれている。また、奥壁天井部以外の四面には連続線刻三角文が施されている。副葬品には須恵器の坏蓋・坏身、坩、壷、甕片、土師器の坏蓋、坏身、高坏、平瓶などのほかに鉄鏃（圭頭鏃、方頭鏃、柳葉鏃）、刀子、刀、馬具の締め金具、金環などが見られた。

(1)　前庭部（第２図）

東１号横穴墓では羨門から扇形に広がる前庭部が確認された。前庭部の規模は長さ約３ｍ、羨門部付近で幅約1.60ｍ、先端部付近で幅約3.50ｍを測る。前庭部は昭和55年調査で確認された２列の閉塞石の間から始っている。

(2)　出土遺物（第３図、第５図）

前庭部からは床面直上で閉塞石と思われる川原石をはじめ須恵器の甕、坏身、土師器の高坏、鉄製品では鉄鏃、馬具金具などが出土した。

須恵器（第３図）

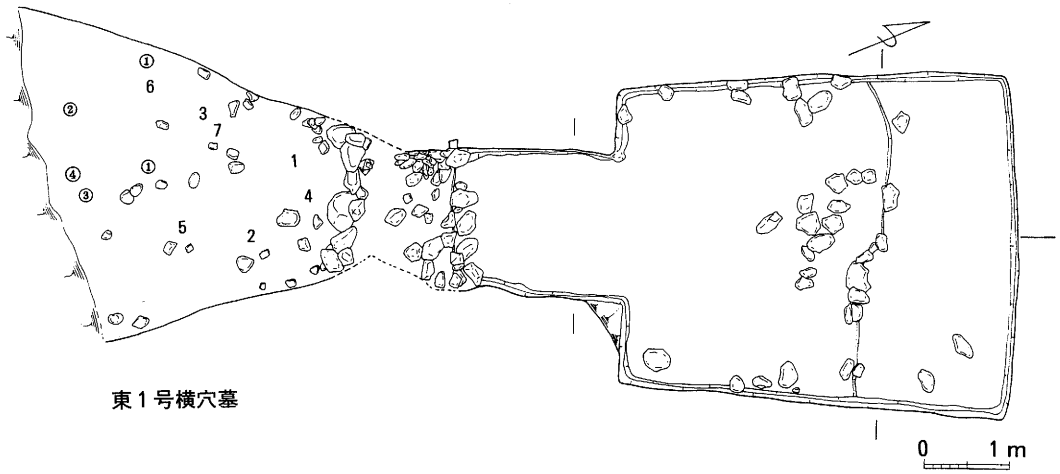
１は底部と口縁部から胴部のほぼ２分の１を欠く甕形土器である。推定口径23.2㎝、胴部最大径51.1㎝を測る。口縁部には自然釉が見られ内外面の頸部近くまで及ぶ。器面調整は外面には口縁部から胴部中位にかけて格子目叩きのあとカキ目調整、胴部下位に格子叩きが施されている。内面には頸部から胴部下位にかけて同心円叩きが施されており中位には叩きのあとに等間隔のタテ方向の指ナデが施されている。下位は同心円の叩きが重なり合って施されている。

２は口縁端部径11.0㎝、器高約3.3㎝を測る坏の身にあたる。器面調整は胴部外面にヨコナデ、底部はヘラ切りのあとナデ調整が施されている。

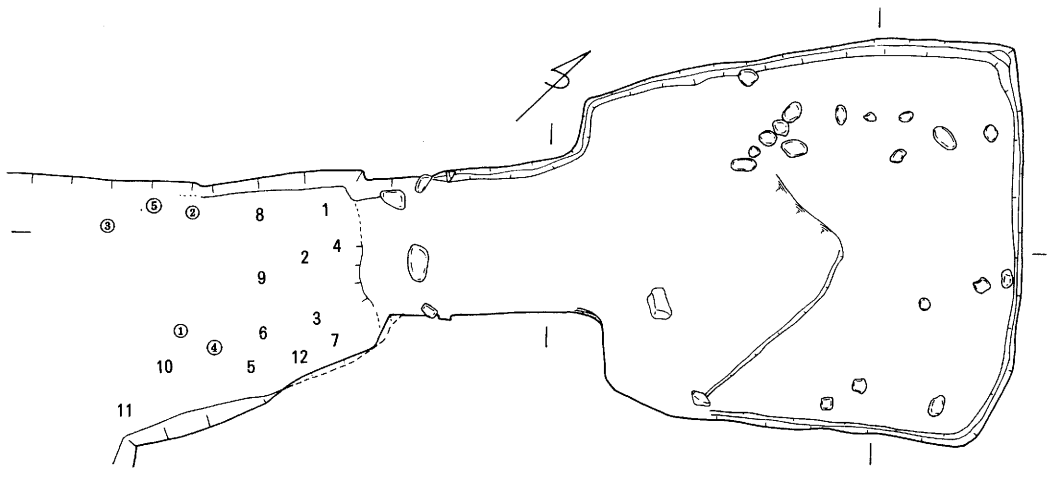
土師器（第３図）

３は高坏の坏部口縁片で椀状に開き口縁部近くで外反する口縁部と思われる。内外面とも風化が著しい。

４は高坏の脚部から坏部下位にかけての部位にあたる。「ハ」の字わずかに広がる脚部に椀状の坏部が付くと思われる。脚部の高さが約6.0㎝、裾端部径7.7㎝と小型の高坏である。内外面とも風化が著しい。３と４は同一個体とおもわれる。



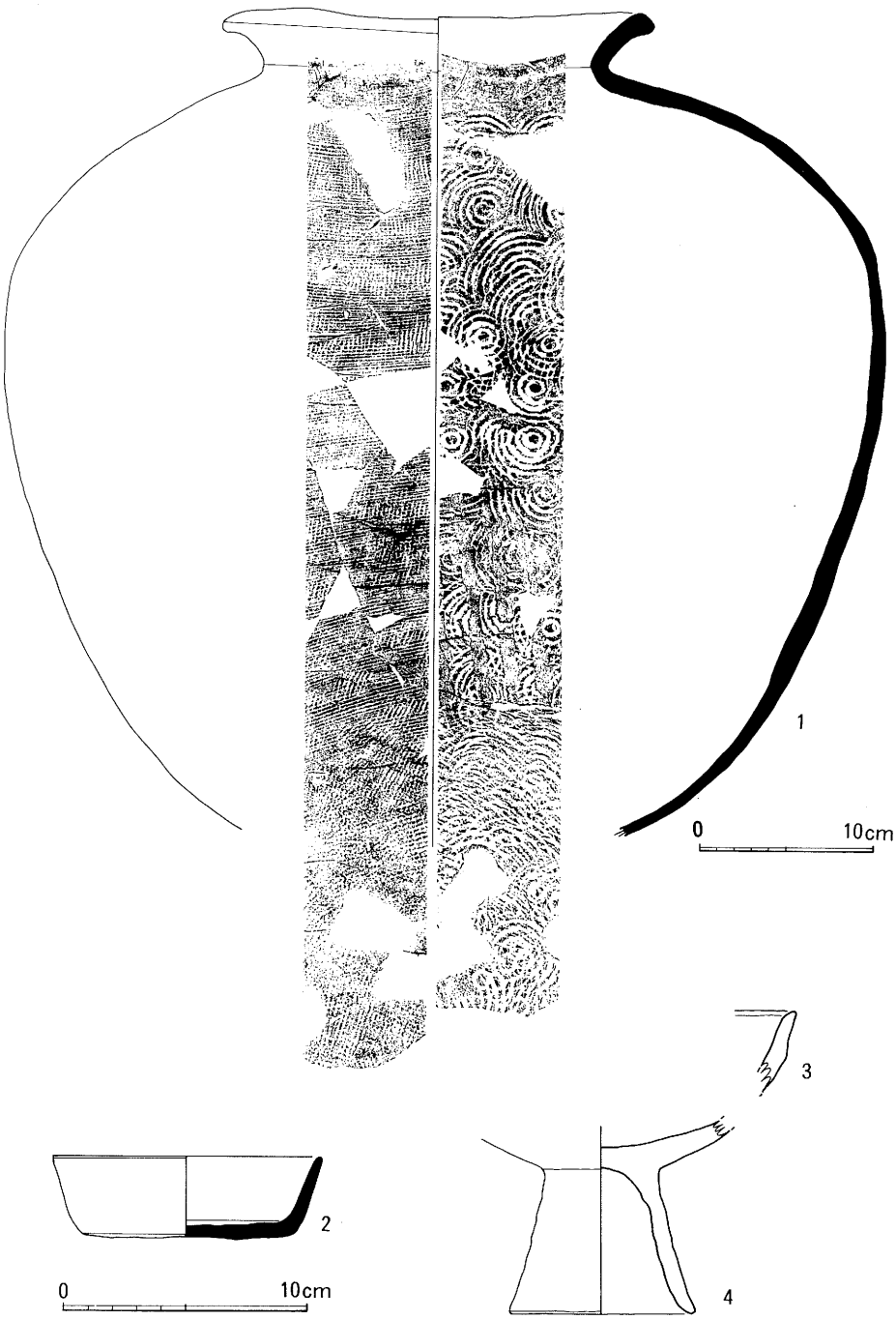
東１号横穴墓



東２号横穴墓

①……土器
1……鉄器

第２図　東１号・東２号横穴墓前庭部遺物出土状況図



第３図　東１号横穴墓前庭部出土遺物実測図

鉄製品（第5図）

鉄製品はいずれも粘土が錆状に付着しており肉眼では判断が困難であったため軟X線撮影写真をもとに作図した。

1・2は鉄鏃でいずれも方頭鏃である。1は斜めの関を持つ。鏃身部長4.5cmを測る。2は基部を欠く。

3～7は馬具で轡金具の一部である。3・4は環状鏡板。3は完形品で長径6.0cm、短径5.0cmを測る。側面に引手の環の一部らしい塊が見られる。5～7は引手である。いずれも一本柄引手で5は一方の環を屈曲させている。6・7は欠損品である。環の径は5が2.3cm、6が2.7cm、7が2.4cmを測る。

3．東2号横穴墓（第2図、第4図、第5図）

東2号横穴墓は東1号横穴墓の東側約30mに位置する。玄室床面形は長方形を呈する妻入り寄せ棟造りの横穴墓である。玄室の床面規模は奥行4.45m、奥壁幅3.90m、袖部幅2.95mを測る。床面からの高さは最高で2.20mを測る。羨道部は長さ1.60m、幅1.50m、高さ1.40mを測り羨門部に閉塞石列はなく川原石数個が確認されたのみであった。玄室天井部の四方には幅10cm～12cmの工具痕が残る。副葬品には須恵器の甕片、土師器の椀、鉄製品では鉄鏃（平根鏃）、刀子がある。

(1) 前庭部（第2図）

東2号横穴墓からも前庭部が確認された。確認された前庭部は羨門との境に両側に袖を持ち台形状に広がる。その規模は長さ2.5m～3.0m、羨門部付近で幅約1.80m、先端部付近で幅約2.50mを測る。

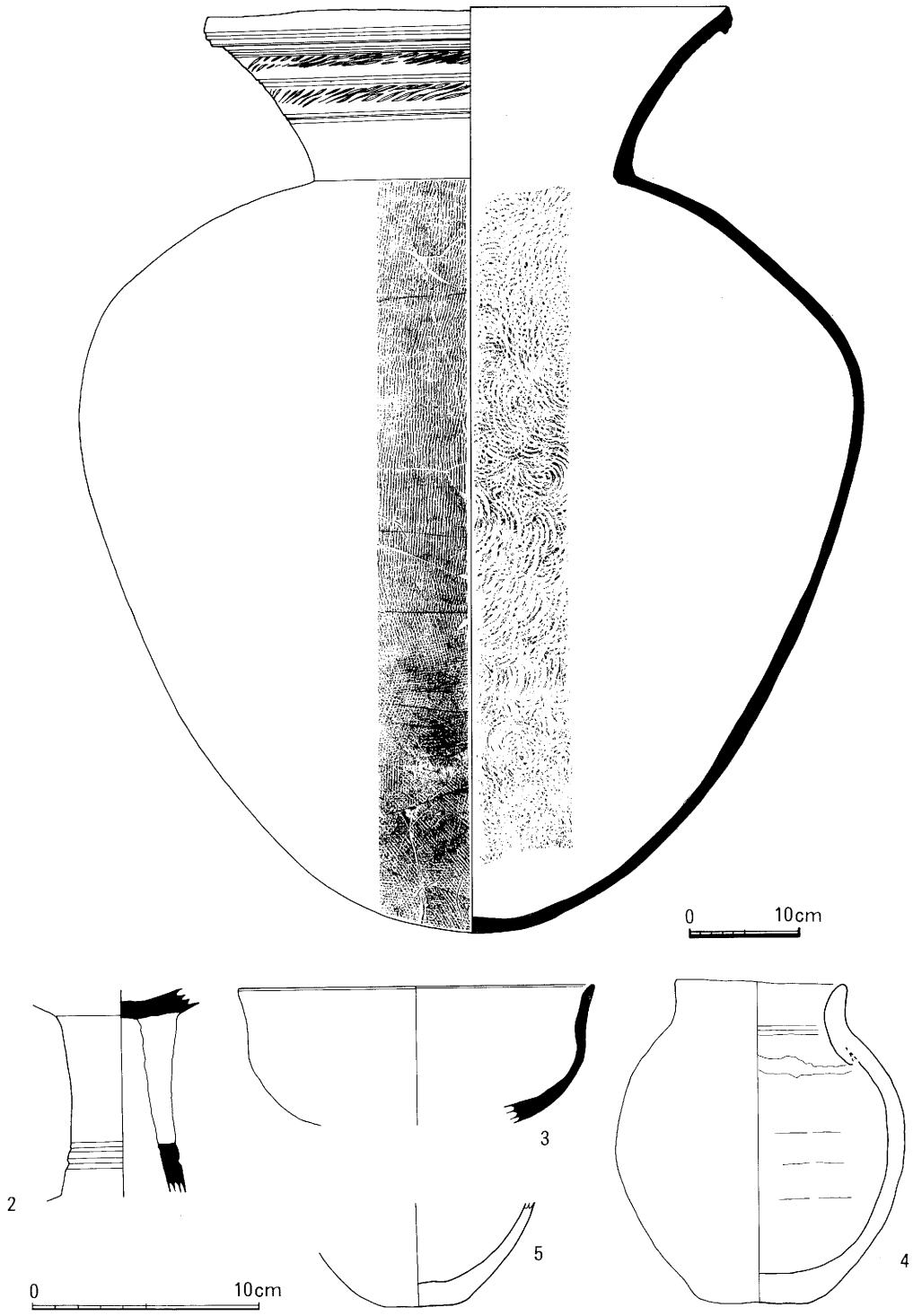
(2) 出土遺物（第4図、第5図）

前庭部の出土品には、須恵器の大型の甕形土器、高坏（脚部）、土師器の壷形土器、高坏（坏部）？、椀形土器などの土器類のほかにも刀（柄）、金具類などの鉄製品が見られた。須恵器の大甕は前庭部中央の羨門寄り床面直上付近でつぶれた状態で検出された。また、土師器の壷も同一箇所に置かれていた。

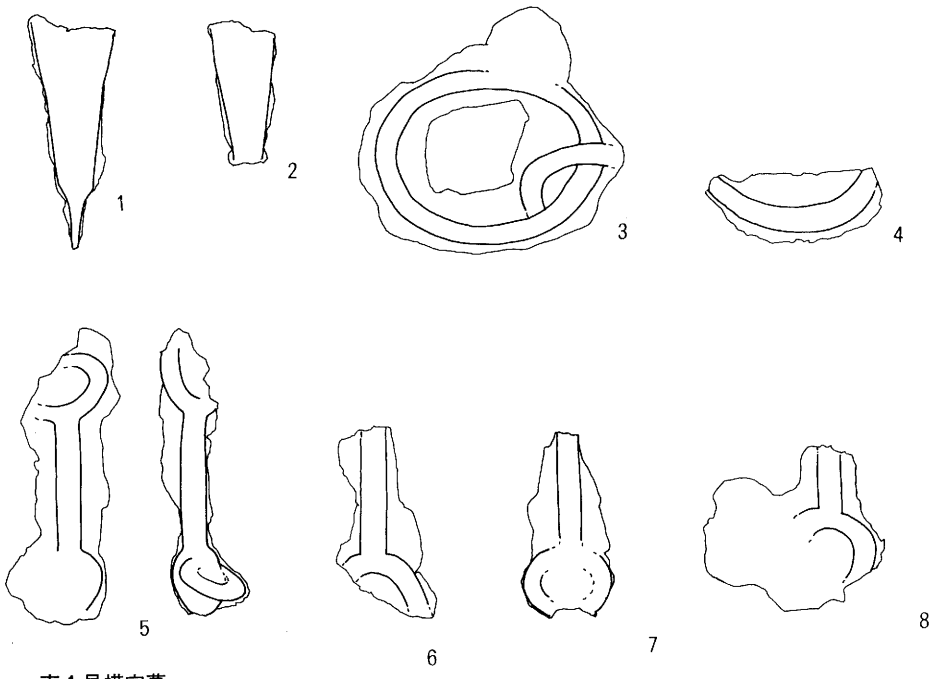
須恵器（第4図）

1は器高80cmを超す大型の甕形土器である。胴部と底部の一部を欠くだけのほぼ完形である。器面調整は外面の口縁部から胴部下位にかけて格子目叩きが施されている。内面には頸部から胴部下位にかけて同心円叩きが施されている。下位は同心円の叩きが重なり合って施されている。口縁部から頸部にかけては内外面ともナデ調整が施されており、外面には2条の凹線が3段に巡っており2条の凹線の間に2段の連続櫛描文が施してある。器高83.5cm、口縁端部径47.0cm、胴部最大径71.0cmを測る。

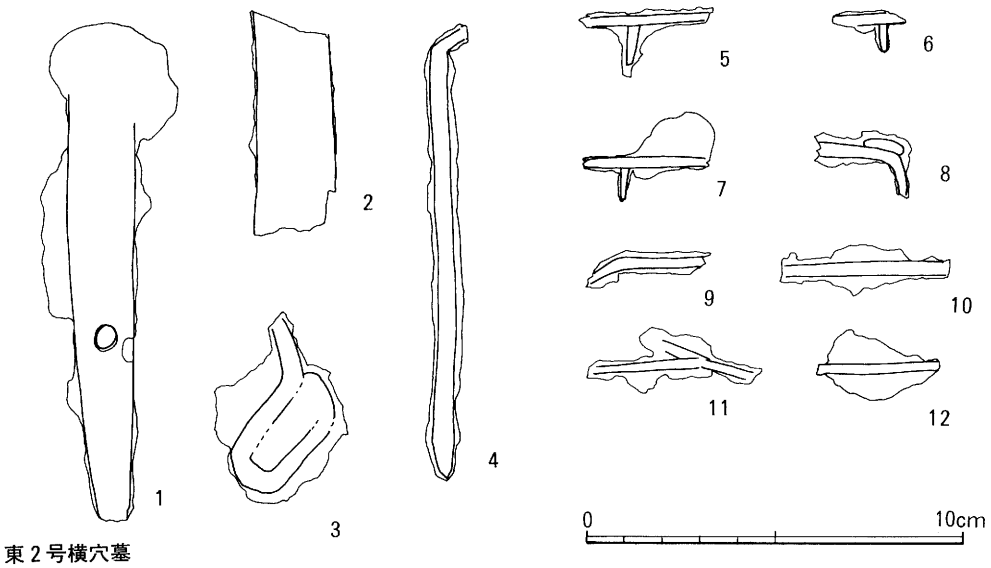
2は高坏の脚部片である。3分の1程のたて長の破片で裾部は欠く。約5.7cmの透かしの一部



第4図　東2号横穴墓前庭部出土遺物実測図



東１号横穴墓



東２号横穴墓

第５図　東１号・東２号横穴墓前庭部出土鉄器実測図

が見られる。透かしの下に2条の沈線が巡る。

3は高坏の坏部と思われる破片で下位（底部）を欠く。推定口径は15.9cmを測る。

土師器（第4図）

4は完形の壷形土器である。楕円形の胴部に短く垂直気味に延びる口縁部と平底の底部がつく。

器面調整は内外面ともナデ調整が見られる。また、内面には粘土の継ぎ目が数か所に見られる。器高14.1cm、口径7.4cm、底径4.8cm、胴部最大径は胴部中位にあり12.9cmを測る。

5は椀形土器か壷形土器の底部である。底部径は3.4cm～3.2cmを測る平底の底部である。内外面とも風化が著しく器面調整は不明である。

鉄製品（第5図）

鉄製品は東1号横穴墓出土の鉄製品同様いずれも粘土が錆状に付着しており肉眼では判断が困難であったため軟X線撮影写真をもとに作図した。

1・2は刀の一部。1は柄の部分で目釘穴が1か所見られる。

3は留金具と思われる。

4は長さ約12cmの釘状の金具で一方が「く」の字状に短く曲る。

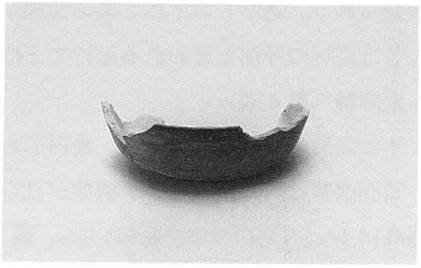
5～12は細長の金具の破片である。5～7には鋲が付く。細長の金具の破片はこのほかにも十数本見られる。

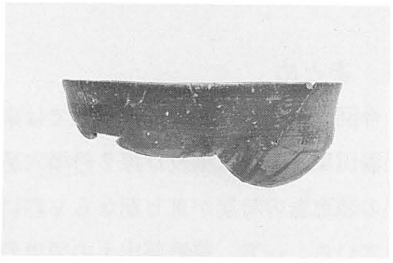
4．まとめ

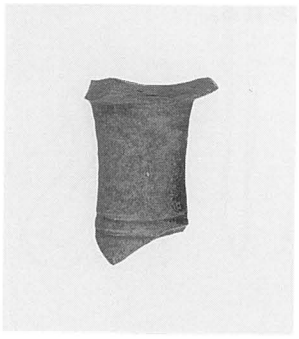
今回（昭和57年）の補足調査では東1号・東2号横穴墓のいずれからも前庭部が確認された。土器田東1号横穴墓及び東2号横穴墓の築造時期については、昭和55年の玄室調査の結果、副葬品の須恵器の時期がⅢb期からⅤ期に比定されることから6世紀中ごろから7世紀前半にあてられている。一方、前庭部出土の須恵器は東1号横穴墓でⅣ期～Ⅴ期、東2号横穴墓でⅢb期に比定される。

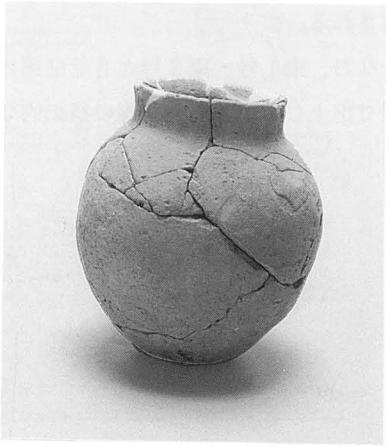
なお、東1号・東2号とも前庭部の中央部付近（床面）から大型の甕形土器が1個体に近い状態で出土しており墓前祭等の祭祀的な色彩が考えられる。

図版1

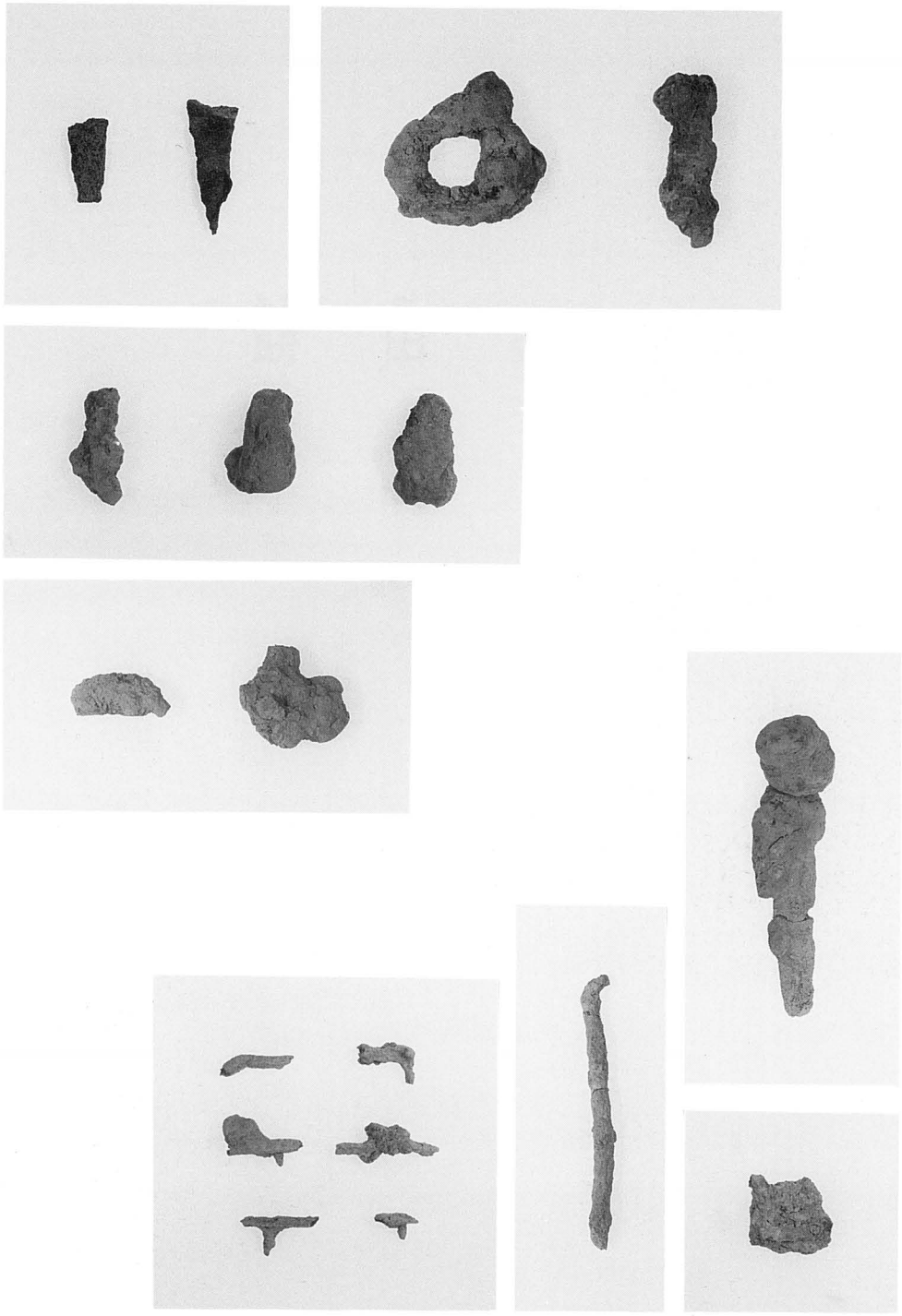








東1号・東2号横穴墓前庭部出土土器



東1号・東2号横穴墓前庭部出土鉄製品

餅田遺跡

例　　言

1．本報告は沿海中部地区県営広域営農団地農道整備事業に伴い、県教育委員会が平成２年度に行った餅田遺跡の発掘調査報告書である。

2．餅田遺跡の調査は平成２年９月21日から同10月17日まで行った。調査は県教育庁文化課主事東憲章が担当した。

3．本報告の執筆・編集は東が行った。

4．出土遺物は県総合博物館埋蔵文化財センターに保管している。

本　文　目　次

1．遺跡の位置と環境 …… 14
2．調査の経過 …… 16
3．出土遺物 …… 17
4．まとめ …… 20

挿　図　目　次

第1図　遺跡位置図（5万分の1） …… 14
第2図　遺跡周辺地形図（6百分の1） …… 15
第3図　基本土層柱状図 …… 16
第4図　出土遺物実測図①（3分の1） …… 18
第5図　出土遺物実測図②（3分の1） …… 20

表　目　次

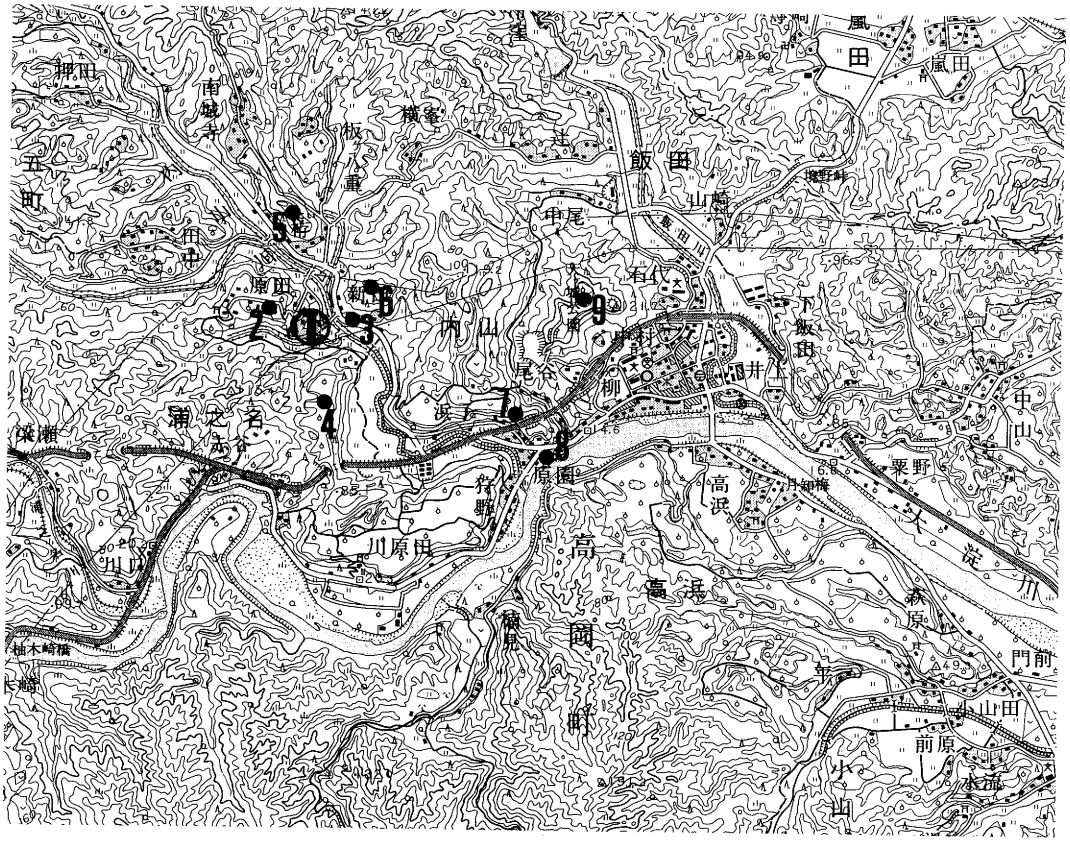
第1表　出土遺物観察表 …… 19

1．遺跡の位置と環境

高岡町はその７割を山林で占められ、中央を大淀川が東流する。山間部の小規模な谷や大淀川両岸の河岸段丘上には、旧石器時代から近世に至るまでの数多くの遺跡が分布する。

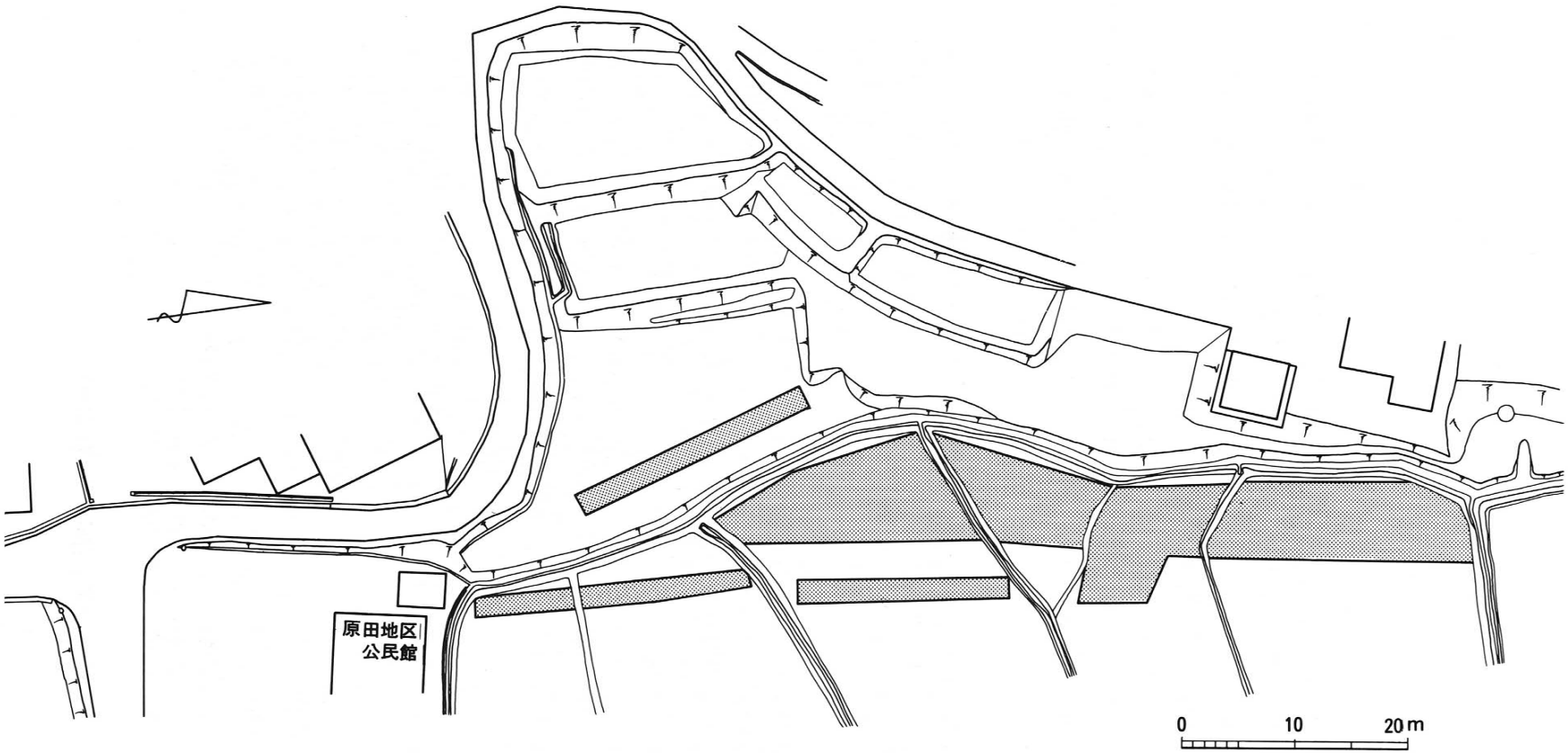
餅田遺跡は、大淀川の支流内山川の左岸、台地裾部に位置する（第１図）。台地裾部は、水田耕作や宅地造成でかなり削られていると思われる。

後背の台地上には中・近世の遺物が見られる原田遺跡が立地する。内山川を挟んで対岸の低地部には、近世の遺物散布地の内山新田遺跡が見られる。餅田遺跡の南約１㎞の台地上には、中世の遺物散布地である橋上遺跡が立地する。また、周辺には中・近世の城館が見られる（桁城址、池ノ尾城址、尾谷城址、平ケ城址、天ケ城址）。久津良遺跡は天ケ城の城下町的性格を持つ。



1. 餅田遺跡　2. 原田遺跡　3. 内山新田遺跡
4. 橋上遺跡　5. 桁城址　6. 池ノ尾城址
7. 尾谷城址　8. 平ケ城址　9. 天ケ城址

第１図　遺跡位置図（１／50,000）



※アミ部は調査区

第2図　周辺地形図（1／600）

その他町内の主だった遺跡を時代を追って概観する。浦之名地区久木野遺跡周辺で剥片尖頭器が表採されている。縄文時代の遺物は早期を中心に各地で見られる。発掘調査で内容が明らかな遺跡として橋山第1遺跡、天ケ城址などがあり、それぞれ集石遺構、散石、押型文土器などが出土している。その他、後期の土器等も町内で表採されている。弥生時代の遺跡は少ないが学頭遺跡、丹後堀遺跡などが発掘調査により確認されている。古墳時代には県指定の高岡古墳1～3号がある。地下式横穴墓は久木野で調査されている。集落等は調査されていないが各地で古墳時代の遺物も表採されている。古代から中・近世にかけては穆佐地区を中心に展開する。穆佐城址は大きく4つの区画に分かれる山城で、ほぼ完存する城郭遺構は曲輪の機能分化が明確に復元できる。島津氏、伊東氏との関わりの中で穆佐城を中心に存在する小規模な城郭遺跡群や集落、寺院等からは、当時の社会体制を窺い知ることができる。

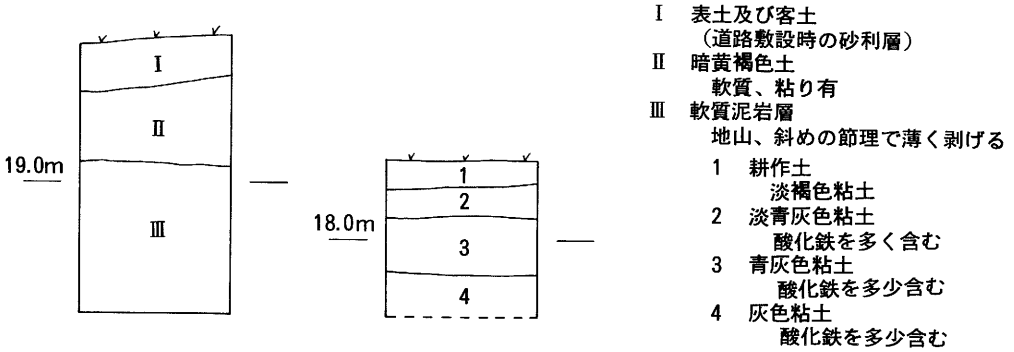
<参考文献>

高岡町教育委員会『高岡町遺跡詳細分布調査報告書』高岡町埋蔵文化財調査報告書第2集　1992

2．調査の経過

沿海中部地区県営広域営農団地農道整備事業の予定路線のうち、東諸県郡高岡町大字五町字餅田においては、平成2年4月の県文化課による試掘調査の結果、中・近世の遺物包蔵地の所在が確認された。協議の結果、現状での保存は困難であるため宮崎県中部農林振興局からの依頼を受け、県教育委員会では平成2年9月21日から同10月17日まで発掘調査を実施した。

調査区の大部分は台地からの伏流水が湧き出す湿田で、以前より暗渠排水等の施設が設けられているものの強グライ化土壌である。湧水と折からの長雨で調査区は水びたしの状態となり作業は困難を極めた。調査対象地の約9割の表土を剥ぎ、土層の確認と遺構・遺物の検出作業を行っ



第3図　基本土層柱状図

たが、遺物は出土するものの遺構は全く見られなかった。土層観察（土層観察は、調査区中央と原田公民館側の道路法面で行った。第３図）の結果からも遺構の検出は見込めなかったため、周辺地形の測量を行い調査を終了した。（第２図）

３．出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、中近世の土師質土器片、陶磁器片を中心に約328点である。出土位置・層位ともに安定しておらず、近現代の水田耕作によりローリングを受けランダムな出土状況を示した。

土師質土器（３～７）

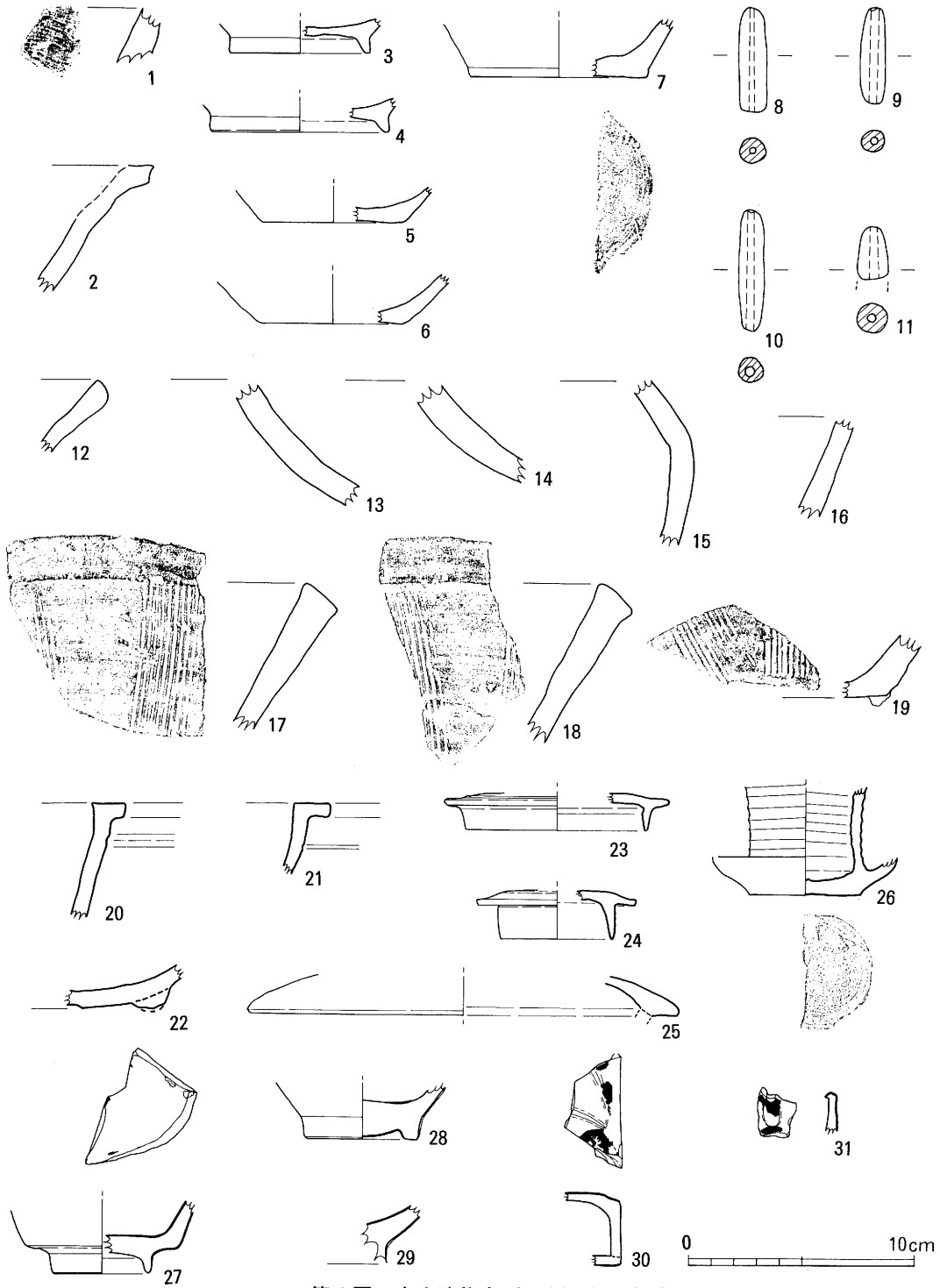
土師器質土器は小片で約173点出土している。碗・小皿・坏等が見られる。器形を復元し得るものは少ない。

国産陶磁器（12～31）

肥前系・備前・常滑・東播系・在地系（薩摩系）の陶磁器が出土している。12は東播系の捏鉢で、内外面ともに丁寧なヨコナデが見られる。13c.前後のものと思われる。13～16は常滑の甕である。13～15には外面に自然釉が付着する。14c.から15c.のものと思われる。17～19は備前の摺鉢である。口縁部があまり肥厚せず、内面はヨコナデの後に９条の掻き目を施す。14c.後半から15c.のものと思われる。20～26は在地系（薩摩系）で18c.～19c.のものである。20、21は鉢で口縁部上面に櫛描きが施される。22は茶家の底で、外面は無釉、カキ目が施される。23～25は蓋である。23の上面に重ね焼きの跡が見られる。26は燭台で、底部外面は露胎、糸切り痕が明瞭に残る。27～31は備前系で、18c.のものである。27は染付碗で、見込みに圏線が見られる。28、29は青磁碗である。28は畳付釉剥ぎで、砂目積みの跡が残る。30、31は同一個体で水滴である。草花が描かれる面に径４㎜ほどの孔を持ち、この面を上とすると側面が無釉となる。

輸入陶磁器（32～39）

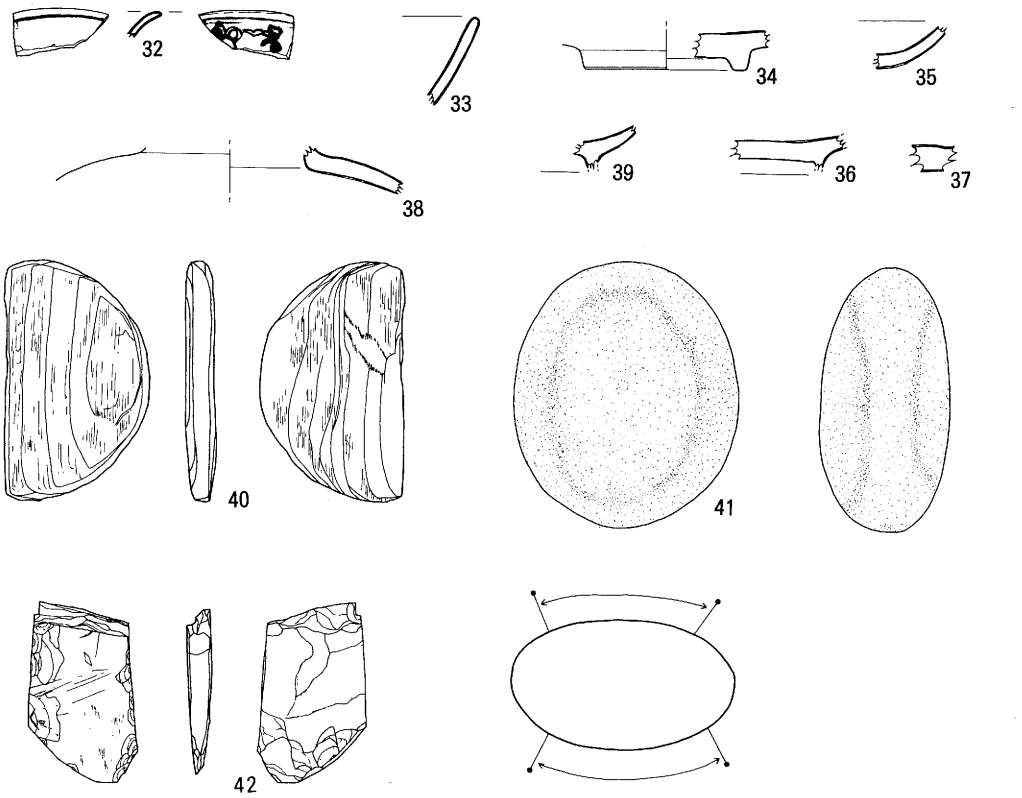
輸入陶磁器は８点出土している。32は染付の碗で、外面に人物の頭髪部分が見られる。33～34は青磁碗である。内外面に細かな貫入が見られる。33の外面に縦位のヘラ描が数条見られる。34は見込みが丁寧に釉剥ぎされ、畳付及び高台内は露胎である。35～37は青磁皿である。36の見込み及び高台内は釉剥ぎされている。38は白磁壷である。39は白磁皿で、切り高台となる。内外面に細かな貫入が見られ、見込みに重ね焼きの目跡が見られる。全て15c.～16c.のものと思われるが、38は14c.に遡る可能性がある。



第４図　出土遺物実測図(1)（１／３）

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			形態・文様・調整等	色調		備考
			口径	底径	器高		外面	内面	
1	土師質	鉢	—	—	—	内面に布痕	浅黄橙	にぶい橙	
2	須恵質	鉢	—	—	—	ナデ	灰	灰	
3	土師質	坏	—	6.2	—	ナデ	灰白	灰白	
4	土師質	坏	—	7.8	—	ナデ	灰白	灰白	
5	土師質	坏	—	6.2	—	風化著しい	浅黄橙	浅黄橙	
6	土師質	坏	—	6.6	—	風化著しい	浅黄橙	浅黄橙	
7	土師質	坏	—	7.8	—	糸切り底	淡黄	淡黄	
12	須恵質	捏鉢	—	—	—	ナデ	灰	灰	東播系
13	陶器	甕	—	—	—	外面に自然釉	にぶい黄褐	にぶい赤褐	常滑焼
14	陶器	甕	—	—	—	外面に自然釉	灰オリーブ	にぶい褐	常滑焼
15	陶器	甕	—	—	—	外面に自然釉	灰オリーブ	にぶい黄橙	常滑焼
16	陶器	甕	—	—	—	ナデ	にぶい橙	灰黄	常滑焼
17	陶器	すり鉢	—	—	—	横ナデの後9条のカキ目	灰褐	褐灰	備前焼
18	陶器	すり鉢	—	—	—	横ナデの後カキ目	灰褐・明黄褐	褐灰	備前焼
19	陶器	すり鉢	—	—	—	横ナデの後カキ目、底部に砂目積痕	赤褐	明赤褐	備前焼
20	陶器	鉢	—	—	—	口縁上部櫛目	オリーブ黒	褐	在地系(薩摩系)
21	陶器	鉢	—	—	—	口縁上部櫛目	暗オリーブ	褐	在地系(薩摩系)
22	陶器	茶家	—	—	—	外面無釉、カキ目	にぶい橙	にぶい黄橙	在地系(薩摩系)
23	陶器	蓋	8.0	—	—	天井部に重ね焼き痕	オリーブ黒	灰	在地系(薩摩系)
24	陶器	蓋	7.1	—	—	ナデ	暗赤褐	灰赤	在地系(薩摩系)
25	陶器	蓋	19.1	—	—	ナデ	灰褐	灰褐	在地系(薩摩系)
26	陶器	燭台	—	5.0	—	ナデ、糸切り底	オリーブ褐	にぶい赤褐	在地系(薩摩系)
27	染付	碗	—	4.2	—	見込みに圏線、印花	明緑灰	灰白	肥前系
28	青磁	碗	—	5.2	—	畳付露胎 見込み及び高台内に砂目積痕	明緑	灰白	肥前系
29	青磁	碗	—	—	—	貫入	オリーブ灰	オリーブ灰	肥前系
30	染付	水滴	—	—	3.2	側面無釉	灰白	灰白	肥前系
31	染付	水滴	—	—	—	孔有り	灰白	灰白	30と同一個体
32	染付	碗	—	—	—	端反り、内圏線、外人物画	明青灰	明青灰	中国産
33	青磁	碗	—	—	—	貫入	明緑灰	明緑灰	中国産
34	青磁	碗	—	6.2	—	内 蛇の目釉はぎ 外 畳付及び高台内露胎	浅黄橙・灰白	浅黄橙・灰白	中国産
35	青磁	皿	—	—	—	貫入	オリーブ灰	オリーブ灰	中国産
36	青磁	皿	—	—	—	見込み釉はぎ	浅黄橙・灰白	浅黄橙・灰白	中国産
37	青磁	皿	—	—	—	貫入	オリーブ灰	オリーブ灰	中国産
38	白磁	壺	—	—	—		明緑灰	明緑灰	中国産
39	白磁	皿	—	—	—	貫入	浅黄橙・灰白	浅黄橙・灰白	中国産

第1表　出土遺物観察表



第５図　出土遺物実測図(2)（１／３）

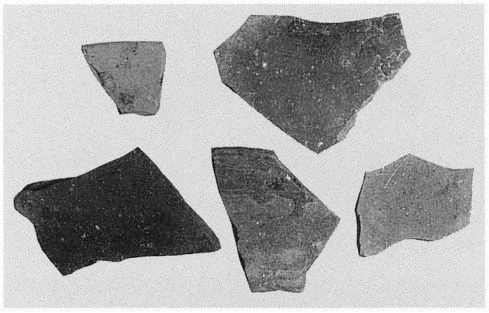
その他の遺物（１、２、８～11、40～42）

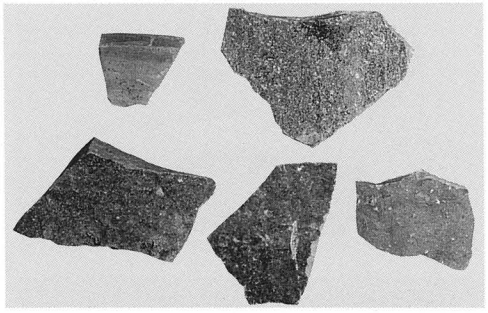
１は布痕土器である。磨滅が著しいが内面に若干の布痕が残る。２は鉢の口縁である。内外面ともに丁寧なナデ調整である。かなり固く焼き締められており、器壁中心部は赤橙色に赤化している。土錘は４点出土している（８～11）。８は片方の縁を細く仕上げず、軸に直交して切っている。40は径9.2㎝の円盤状木製品である。厚さは約1.2㎝で側面は斜めに面取りされている。曲物の底であろう。41は砂岩を使用した磨石である。42は泥岩を使用した砥石である。細かに走る節理によって裏面は剥がれている。

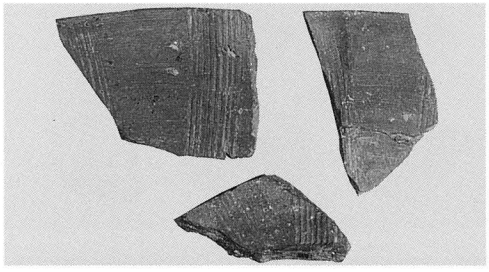
４．まとめ

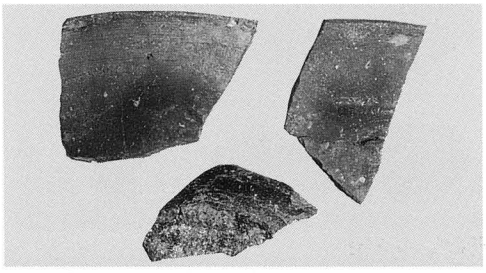
中近世の遺跡の存在が予想された今回の調査であるが、結果として遺構を検出することはできなかった。調査地は台地からの伏流水が湧き出す湿地であり、生活の場としては不向きであろうと思われる。遺物についてもローリングを受けた状態で各層からランダムな出土状況であった。隣接する台地上に存在した人間生活空間（遺跡）から転落したものではないかと考えられる。

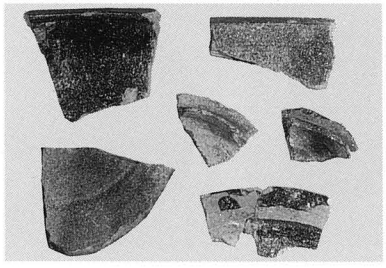
図版1

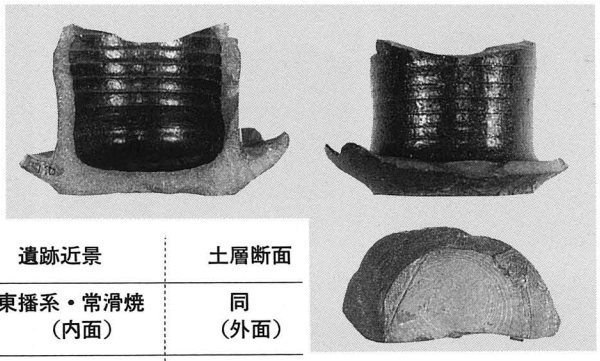


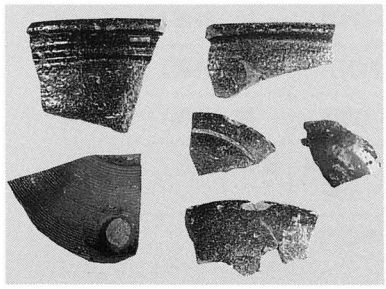












遺跡近景

土層断面

東播系・常滑焼（内面）

同（外面）

備前焼（内面）

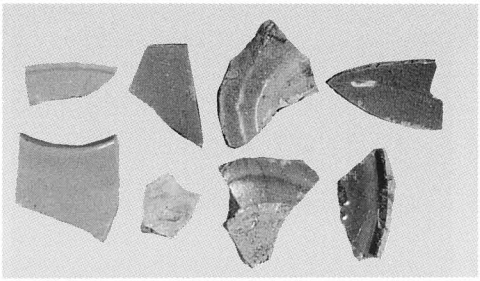
同（外面）

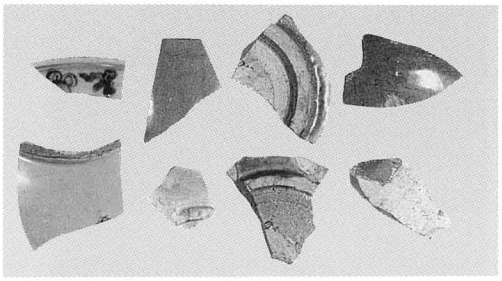
薩摩系（（内面）

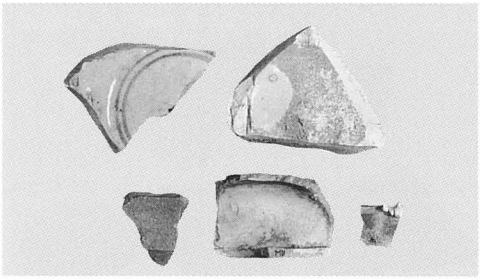
薩摩系・燭台

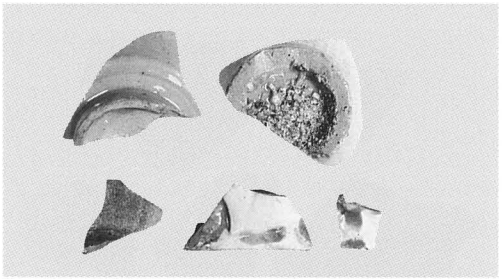
同（外面）

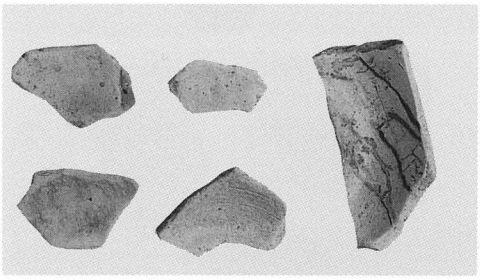
図版2

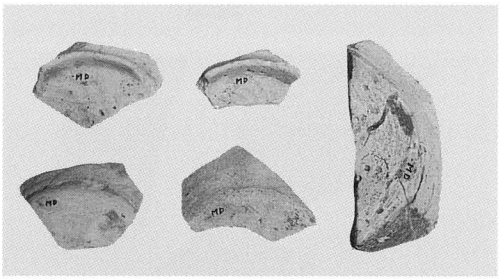


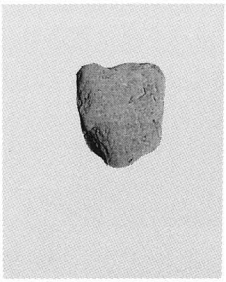


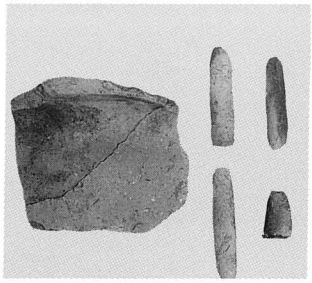


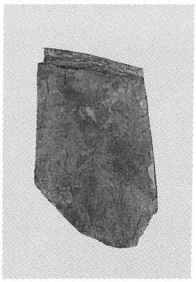


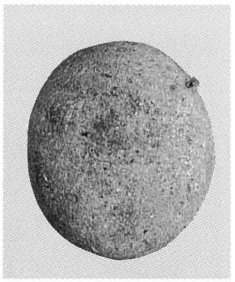


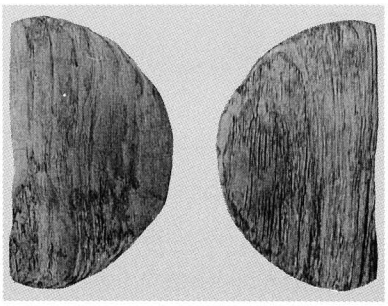












輸入陶磁（内面）		同（外面）	
肥前系（内面）		同（外面）	
土師質坏（内面）		同（外面）	
布痕土器	須恵質鉢・土錘	砥石	磨石
円盤状木製品			

高鍋城下遺跡
（たかなべじょうか）

例　　言

1．　本報告は小規模改良事業一級河川小丸川水系塩田川改修工事に伴い宮崎県教育委員会が平成３年度に実施した高鍋城下遺跡の発掘報告書である。

2．高鍋城下遺跡の発掘調査は、平成４年３月４日から３月18日にかけて行われた。調査は、宮崎県教育委員会文化課主事長友郁子が担当した。

3．本報告の執筆・編集は長友が行った。

4．出土品は宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターに保管している。

本　文　目　次

1．調査にいたる経緯 …… 24
2．調査の結果 …… 24
3．おわりに …… 26

挿　図　目　次

第1図　遺跡の位置 …… 24
第2図　調査地点と周辺地形図 …… 25
第3図　出土遺物実測図 …… 26

図　版　目　次

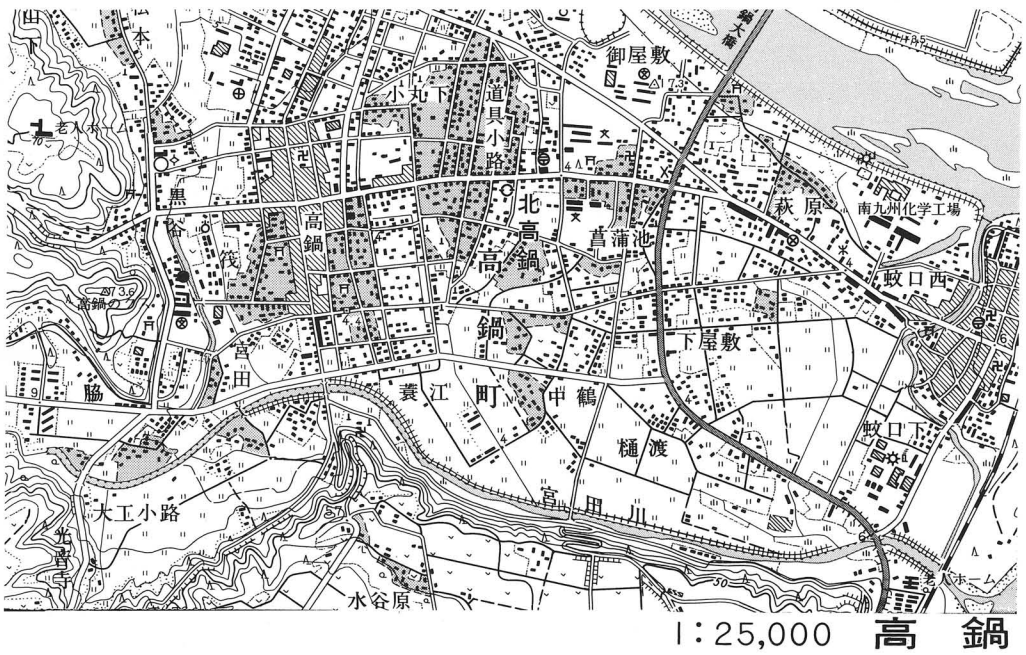
図版1「遺跡近景」「調査状況および土層断面」 …… 27
図版2「高鍋城及び城下町絵図」「高鍋城説明図」 …… 28

1．調査にいたる経緯

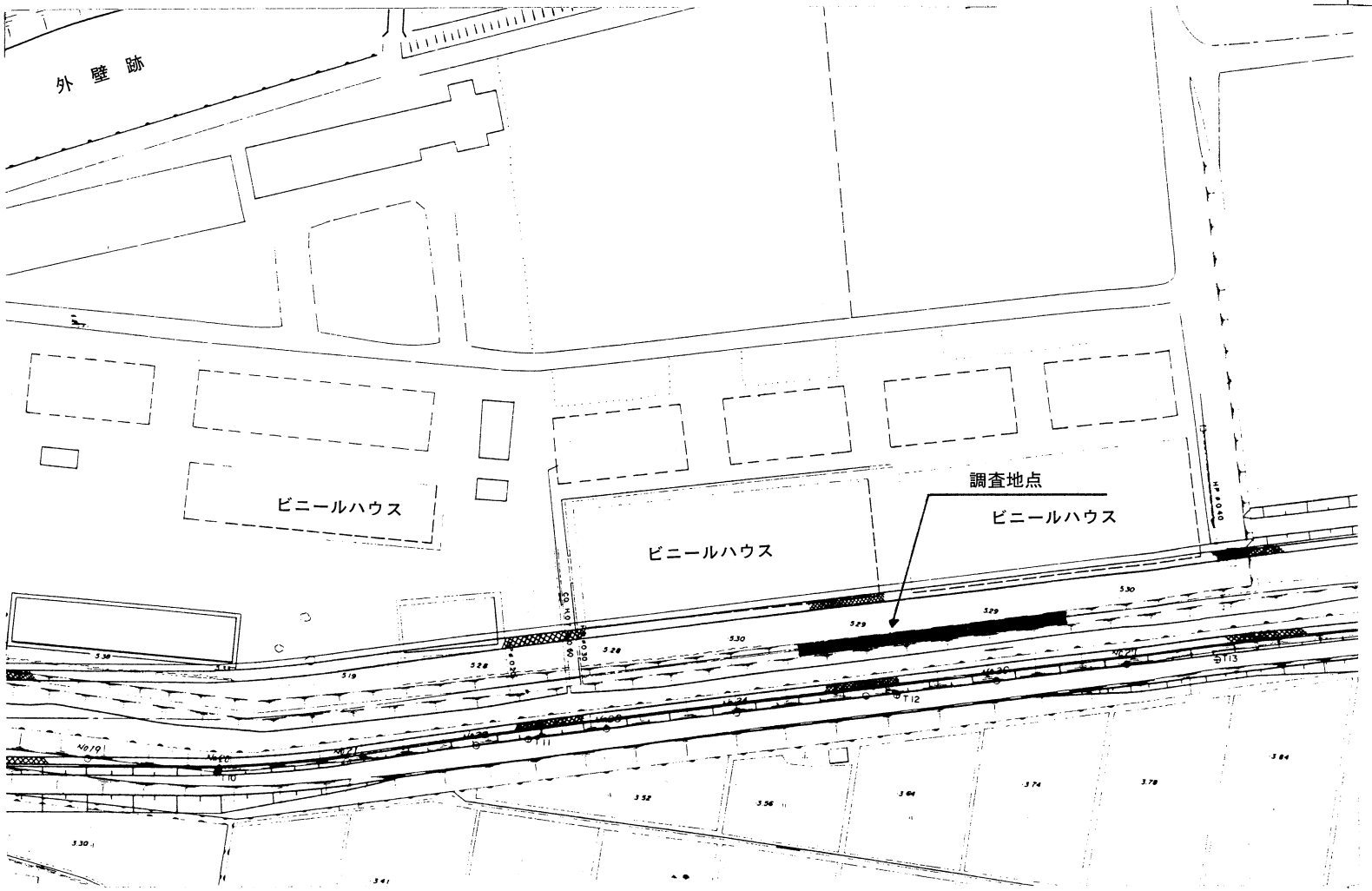
高鍋土木事務所では、塩田川の河川改修を昭和62年度から実施してきたが、平成２年度からの工事区域が高鍋城の旧城下町の一角にかかるため、平成２年５月22日付けで「文化財の所在の有無について」の照会を文化課に行った。文化課で試掘調査の結果、包含層の状態は不安定なものの、弥生土器片、陶磁器片の出土を確認したため、文化課主事長友郁子を調査担当とし本調査を実施することにした。

2．調査の成果

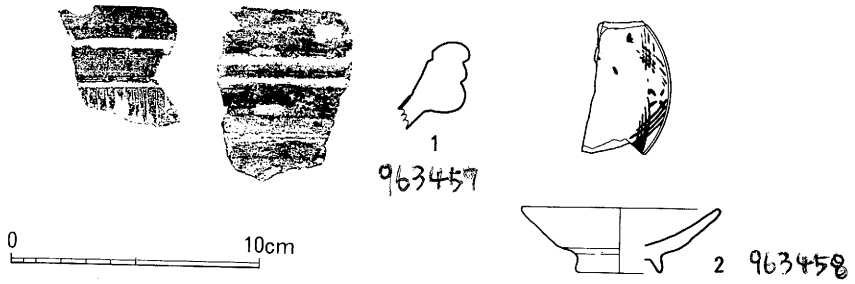
調査は高鍋城の外堀の東側に流れる塩田川の右岸の端を延長約40ｍにわたって行った。現地は高鍋農業高校のビニールハウスの脇になる。調査は宮崎県教育委員会が主体となり、平成４年３月４日から３月18日までの12日間行った。調査の手順として最初に重機により表土剥ぎを行った。その結果、客土が２ｍを越えて堆積しており、その下に赤褐色の鉄分の沈澱層があり、その下層には、厚くグライ化層が堆積していた。調査区の土層断面では畦畔等は確認されなかったが、鉄分の沈着層とグライ層が認められたことからこの地点は水田であったことが確認された。



第１図　遺跡位置図



第２図　調査地点と周辺地形図（１／1,000）



第３図　出土遺物実測図（１／３）

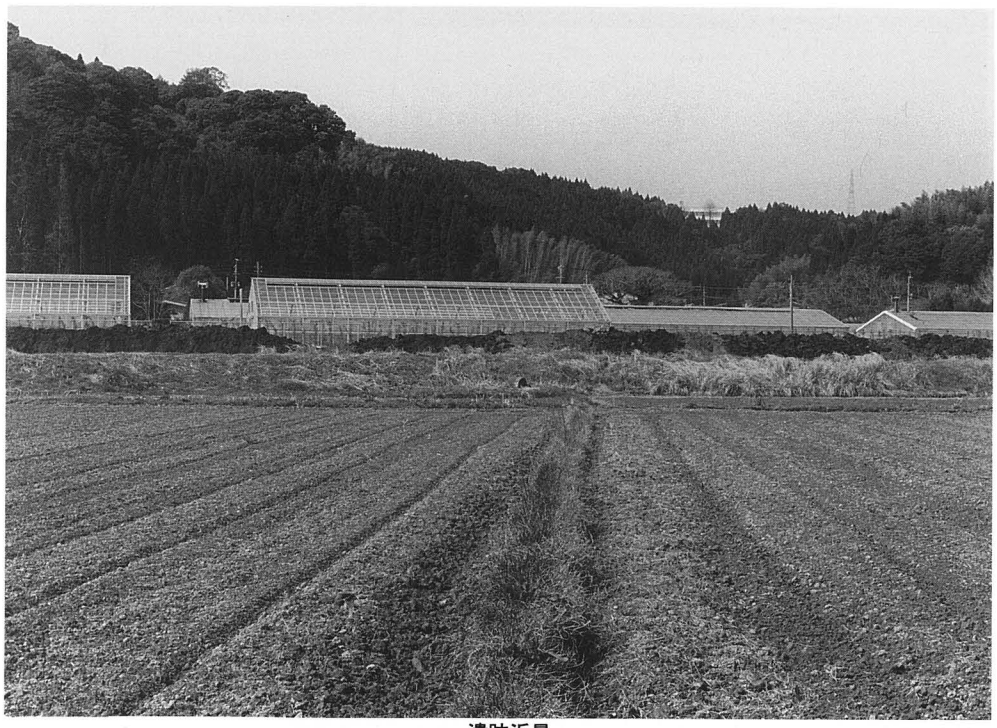
出土遺物は、近世のものと考えられる陶磁器片が約20点出土しているが、全て客土からのものである。第３図１は擂鉢の口縁部である。口唇部は厚く肥厚し、３段の玉縁になっている。外面は暗赤褐色を呈し、内面は暗赤褐色を呈し細い櫛目が不均等な間隔で施されている。櫛目の間隔は残存している範囲では、１㎜～３㎜である。２は染め付けの小皿片である。推定口径7.9㎝、器高2.65㎝、推定低径3.3㎝を計る。口縁円周の約１／５が残存している。

３．おわりに

図版２の写真１と２は高鍋町に残る高鍋城関係の絵図である。この絵図面では調査地点は大手門の右側の川のほとりになると考えられ、江戸時代には水田であった。今回の調査で調査地は以前水田であったことが確認されたので、宮崎県において江戸時代の絵図面と発掘調査の結果が一致し、土地の利用状況が確認された貴重な事例となった。しかし、高鍋城の外堀と塩田川が100ｍ程度しか離れておらず、塩田川の位置づけが不明であるので塩田川と高鍋城の関係を明確にできればとの思惑で調査を実施したが、結果はそれを確認するものは何も見られなかった。したがって、わずか100ｍ程度しか離れていない高鍋城の外堀と塩田川の関係は依然不明のままである。今後の課題である。

註）１．「高鍋城及び城下町絵図」「高鍋城説明図」は高鍋町歴史総合資料館に保管されている。
２．絵図は上記の２点の外に秋月山城守「日向国高鍋城京大地震崩並破損之覚図」明和６年（1769）が残っている。

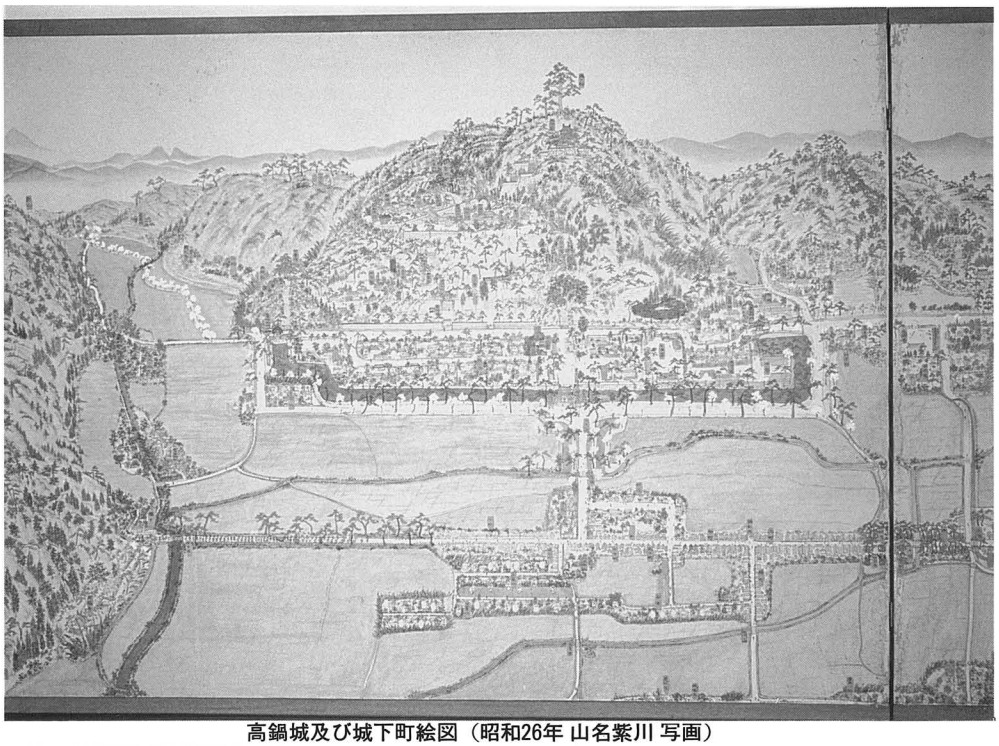
図版1



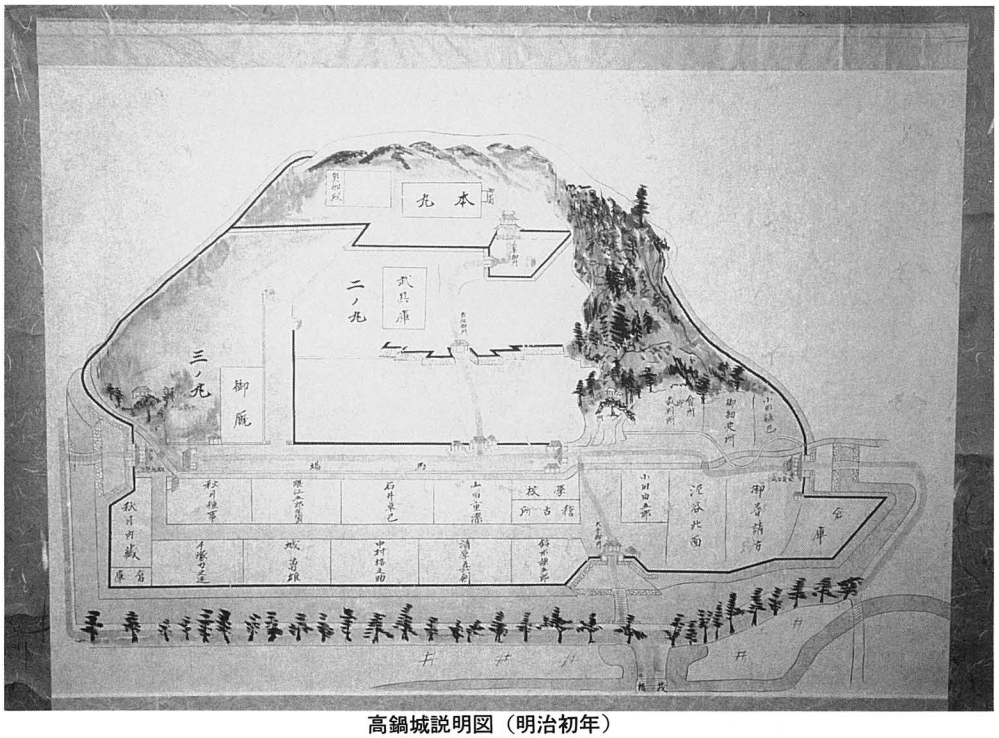
遺跡近景

調査状況および土層断面

図版2



高鍋城及び城下町絵図（昭和26年 山名紫川 写画）



高鍋城説明図（明治初年）

林ノ王遺跡

例　　言

1．　本報告は、平成４年県道都農・綾線道路改良事業に伴い国富町大字八代において発見された林ノ王遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、宮崎県教育委員会が主体となり、文化課主事飯田博之が担当で平成４年８月26日から９月６日まで実施した。

3．本報告の執筆は、飯田博之が行った。

4．出土した遺物は、宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターで保管している。

本　文　目　次

1．調査にいたる経緯 …… 30
2．遺跡の位置と環境 …… 30
3．調査の概要 …… 31
4．包含層の状況 …… 31
5．遺構 …… 32
　(1) 集石遺構
　(2) 溝状遺構
　(3) 土坑
6．遺物 …… 35
7．まとめ …… 36

挿　図　目　次

第1図　遺跡の位置 …… 30
第2図　周辺地形図 …… 31
第3図　集石遺構 …… 32
第4図　溝状遺構 …… 32
第5図　土坑 …… 32
第6図　遺構分布図 …… 33～34
第7図　土層図 …… 33～34
第8図　出土遺物実測図 …… 35

図　版　目　次

図版1　調査地遠景 …… 37
図版2　遺物出土状況 …… 38
　　調査区の状況
図版3　集石遺構 …… 39
　　土坑
図版4　溝状遺構 …… 40
　　土層の状況

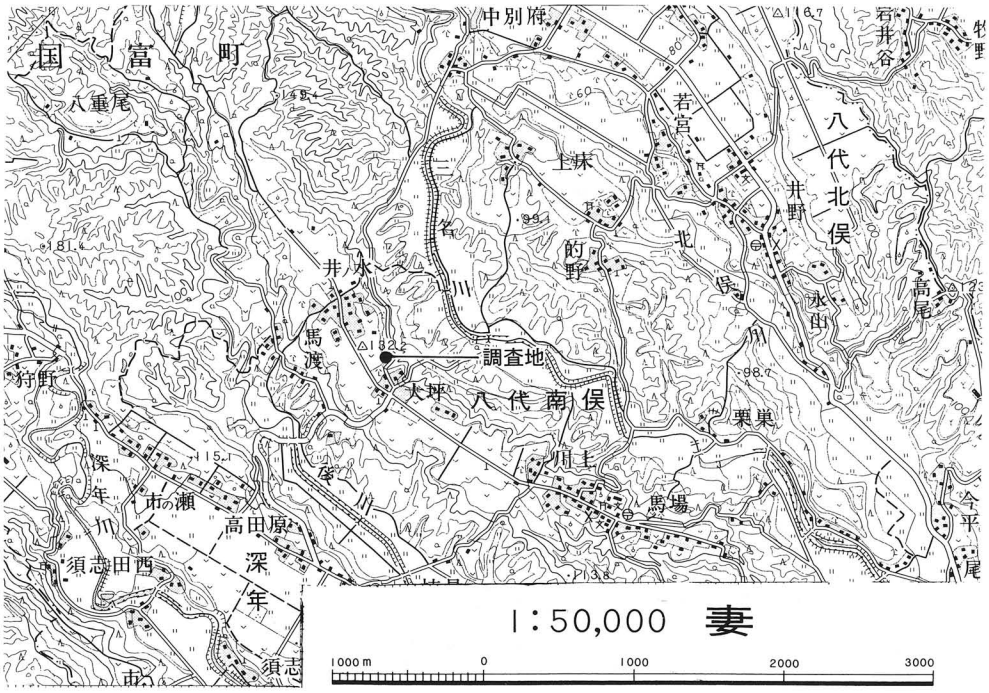
1．調査に至る経緯

調査地は、文化財包蔵地として線びきは行われていなかったが、県道都農・綾線道路改良事業に伴い工事中の法面に集石遺構の断面が露出しているところを、国富町社会教育課の新名祐史氏により発見された。この報告をうけ、高岡土木事務所との協議により工事によって影響を受けていない部分についての調査を行うことになった。

2．遺跡の位置と歴史的環境

林ノ王遺跡は、東諸県郡国富町大字八代2662番に所在する。

調査地は、国富町北西部、綾北川支流の後川、三名川に挟まれた、標高約126ｍの中位段丘面に位置する。同じ台地上には、井水・大坪地下式横穴墓群、馬渡・柳ノ元遺跡等、縄文から古墳時代にかけての遺跡が点在する。



第１図　遺跡の位置

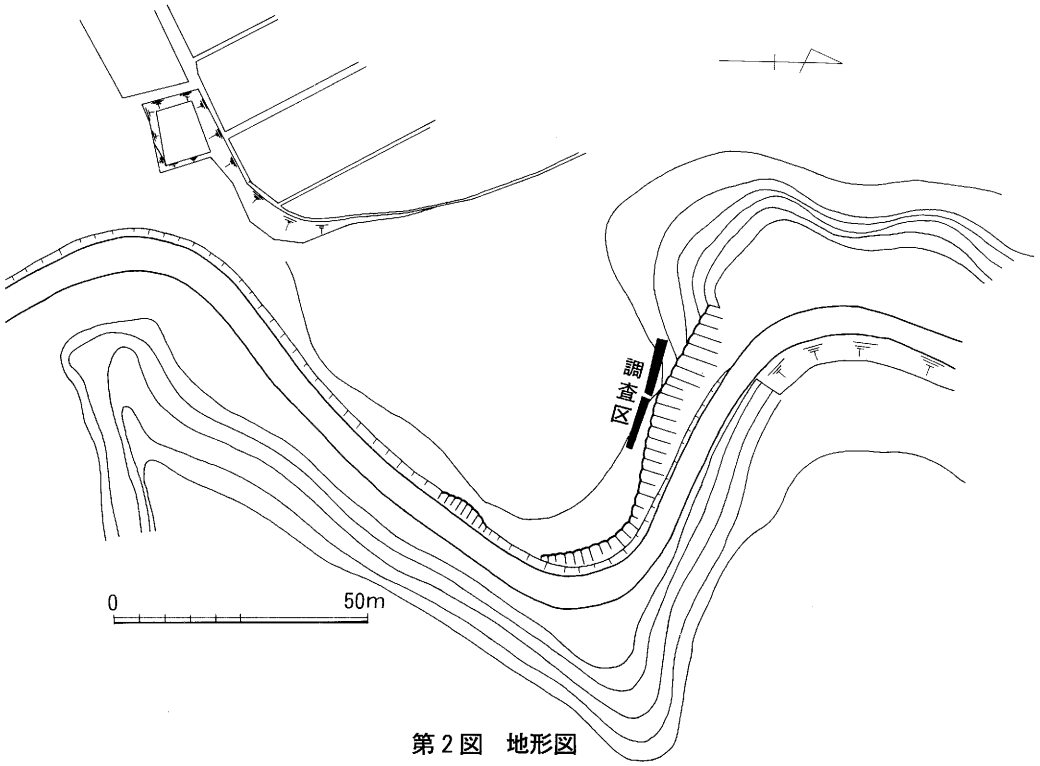
3．調査の概要

調査は、平成４年８月26日から９月６日まで道路改良工事と同時進行で行った。

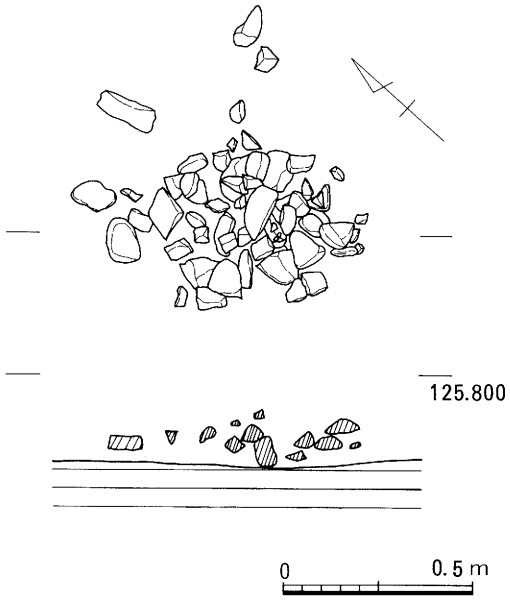
調査地は、北側が約10m余りの崖となっており、作業員の安全を考え、トレンチ状に掘り下げていった。アカホヤ層上部の黒色土層中より、弥生土器片が出土した以外は、遺物・遺構は、確認できなかった。アカホヤ層下部の早期遺物包含層から、縄文土器片や集石遺構・土坑・溝状遺構を検出した。

4．包含層の状況

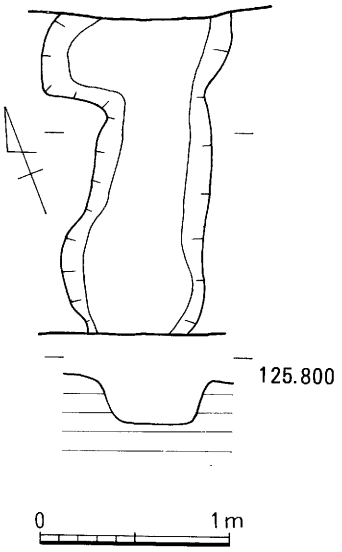
土層の堆積は東の方向に向かって、緩やかに傾いており、表土は約10～20cmの厚さで堆積していた。その下の弥生の遺物包含層である黒色土層は、20cmの厚さで堆積しており、上部で遺物が出土した（Ⅱ層）。Ⅲ層は、アカホヤ層で残存状況もしっかりとしていた。Ⅳ層は、固くしまった暗褐色土で、早期の遺物や、礫群の他、集石遺構を検出した。Ⅴ層は、かたくしまった褐色土層で、その下の層約20～30cmの厚さで橙色のスコリアが混入している。この層と下層の黄褐色粘質土にかけて掘り込まれた溝状遺構の断面が露出しており、埋土は、橙色のスコリアをわずかに



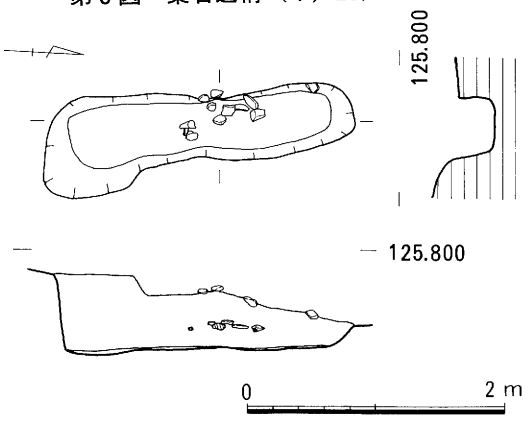
第２図　地形図



第3図　集石遺構（1／20）



第4図　溝状遺構（1／40）



第5図　土坑（1／60）

含む黒褐色土であった。Ⅷ層は、上部に黄橙色のスコリアをブロック状に含む明黄褐色粘質土である。（第7図）

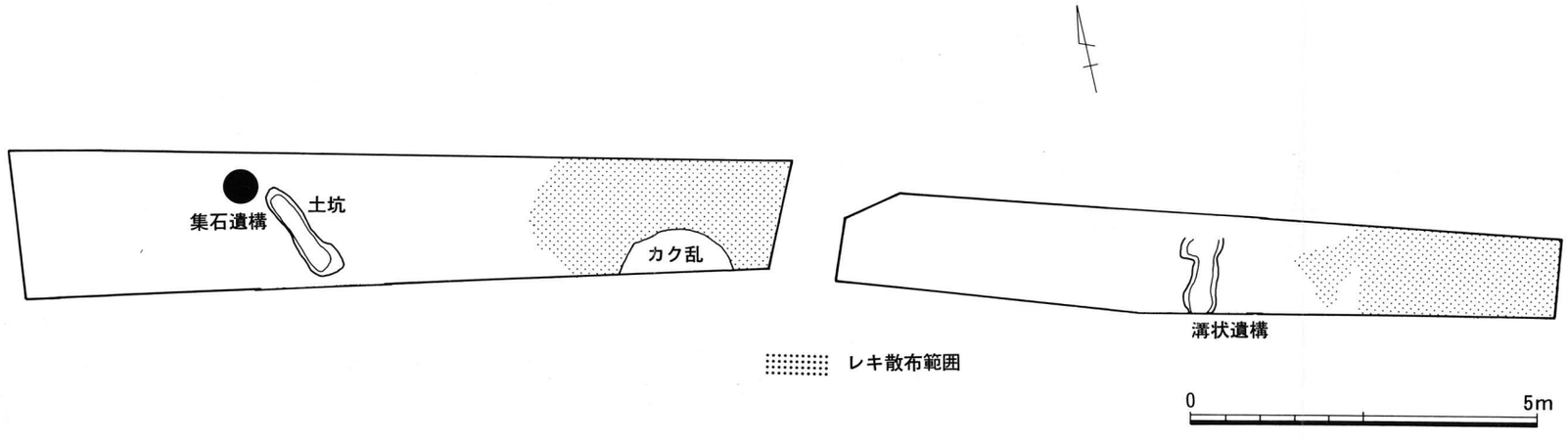
5．遺　構

(1)　集石遺構

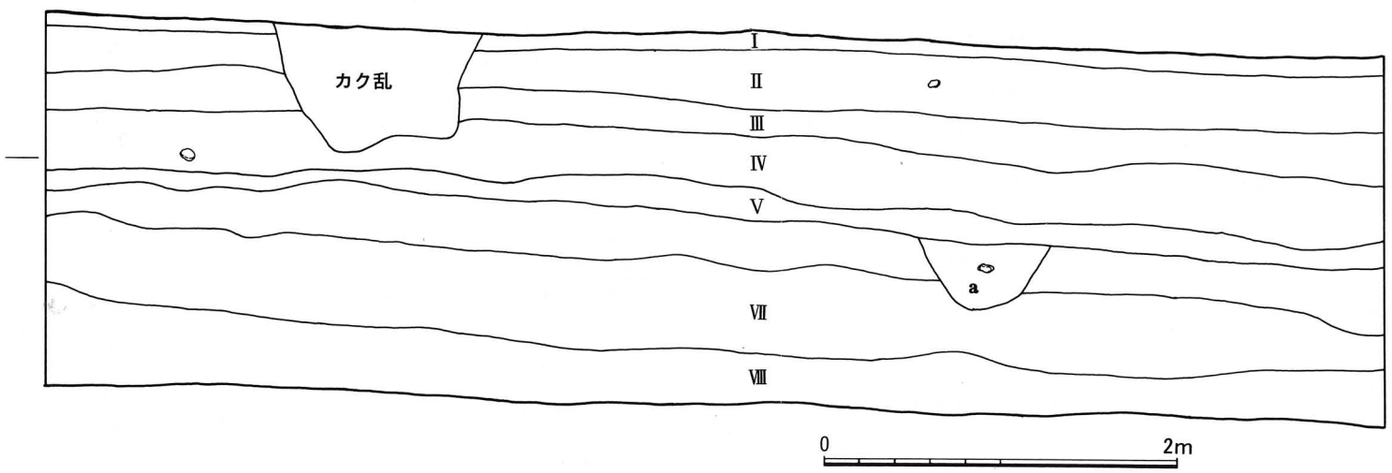
調査区の西側において第Ⅳ層で検出した。主に15cm以下の角礫が多いが、円礫も少し混じっている。石の表面は、赤く焼けているのもあるが、炭化物は見られなかった。また、掘り込みも見られなかった。（第3図）

(2)　溝状遺構

調査区の東側において検出した。土層断面において説明したように、遺構の断面は露出しており、Ⅴ層上面まで掘り下げた段階で検出した。調査区の幅が広くなく、遺構の全容は明らかにできなかったが、土坑の可能性もある。遺構の埋土中には、約10cm前後の角礫が含まれていた。（第4図）

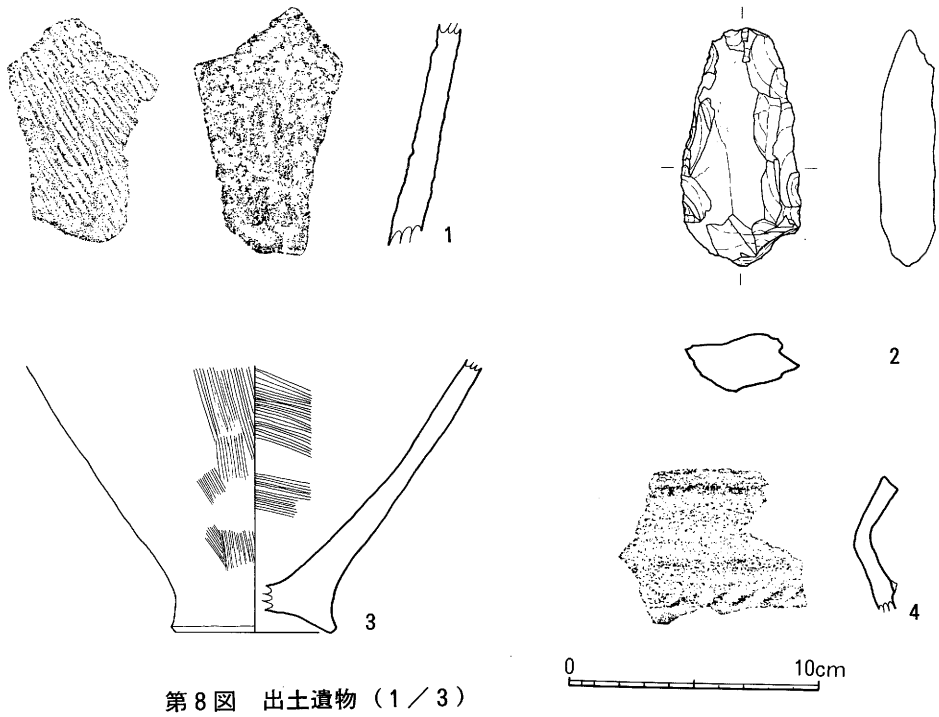


第６図　遺構分布図（１／100）



第７図　土層図（１／40）

Ⅰ……表土
Ⅱ……黒色土（軟らかい）
Ⅲ……暗褐色土（固くしまっている）
Ⅳ……褐色土（固くしまっている）
Ⅴ……褐色土（１～10mm 程度の橙色スコリアを含み固くしまっている）
Ⅵ……黒褐色土（橙色スコリアを微量含み固くしまっている）
Ⅶ……黄褐色粘質土（やや軟質）
Ⅷ……明黄褐色粘質土（黄橙色スコリアがブロック状に混入。固くしまっている）
a……黒褐色土（橙色スコリアを少量含む）



第８図　出土遺物（１／３）

(3)土　坑

調査区の東側で、検出した。平面形は細長い楕円形を呈しており、最大長約250㎝、最大幅約80㎝、60～20㎝の深さを有する。埋土中には、約15㎝前後の礫があり、床近くで検出したものもあった。南側の床面がやや凹状にくぼみをもつスプーン状の断面を呈する。（第５図）

６．遺　物

出土遺物（第８図）

１はⅣ層出土の縄文土器片である。外面に斜め方向の貝殻条痕を施し、内面は風化が激しいが、ナデ調整が施されている。２はⅣ層出土のホルンフェルス製の打製石斧である。最大長9.2㎝、最大幅4.8㎝、最大厚1.95㎝、重さ106ｇである。３はⅡ層の黒色土層より出土した弥生土器の底部片である。外面には、縦方向、内面には斜め方向のハケ目がほどこしてある。底部は上げ底で推定径約６㎝である。中期末から後期初頭にかけての時期が考えられる。４もⅡ層出土の口縁部片である。くの字状に外反する口縁をもち、頸部よりやや下に斜め方向の刻み目突帯を有する。

7．まとめ

工事に影響を受けていない部分の調査になってしまったので、調査面積としては、ひじょうに狭い範囲となってしまった。調査の結果としては、縄文早期と弥生中期末の遺物や遺構が検出できたことにより、概要はつかめるのではないかと考える。なかでも、検出された遺構の中で、土坑については再考の必要性を感じる。縄文早期の炉穴（連結土坑）の可能性が高いからである。この土坑については、床面や埋土には焼土及び炭化物は混入していなかった。炉としての用途をはたしたのかは疑問であるが各地で検出されている炉穴をみるかぎり同じ性格の遺構であると考えられる。早期の炉穴の検出例はまだ少なく、今後の調査による検出数が増えることにより用途の問題、集石遺構との関係もじゅうぶんな検討が加えられるであろう。最後に、現在までに県内で検出されている早期の炉穴を掲げておく。

遺跡名	所在地	調査主体	調査年度
札ノ元	田野町	田野町教育委員会	S59
留ヶ宇戸	串間市大字奈留	串間市教育委員会	S63
椎屋形第2	宮崎市大字細江	宮崎市教育委員会	H 4
弥次郎	川南町	川南町教育委員会	H 4

図版1

調査地遠景

調査地遠景

図版2

遺物出土状況

調査区の状況

集石遺構

土坑

図版4

溝状遺構

土層の状況

平成4年度発掘調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	面積・時期・遺構・遺物等	備考
1	高平城跡	日向市大字塩見	3.12.2 ～4.8.5	県	飯田博之 松林豊樹	5,200㎡ 中世；城跡(掘立柱建物跡12軒、土坑7基)、縄文早期遺構	広域農道(H3から継続)
2	矢野原遺跡	北方町辰	4.2.14 ～4.9.3	県	谷口武範 山田洋一郎	4,800㎡ 縄文時代早期；集石遺構15基 旧石器時代；ナイフ形石器ほか	県道改良(H3から継続)
3	下り松遺跡	高鍋町大字持田	4.4.17 ～4.4.23	県	菅付和樹 戸高眞知子	400㎡	確認・国道10号拡幅
4	築池遺跡	都城市上水流町・下水流町	4.5.11 ～5.3.12	県	菅付和樹 橋本英俊	4,000㎡ 古墳時代；地下式横穴墓群20基、土坑4基	県道改良
5	蔵元遺跡	えびの市大字上江	4.5.25 ～4.5.26	県	面高哲郎	50㎡	確認・農業基盤整備
6	東霧島遺跡	高崎町大字東霧島	4.6.1 ～4.6.2	県	面高哲郎	100㎡	確認・砂防ダム建設
7	坂ノ上遺跡	日南市大字塚田	4.6.1 ～4.10.1	県	長津宗重 長友郁子	1,300㎡ 縄文時代早期；竪穴住居跡12軒、集石遺構19基	広域農道
8	椎屋形遺跡	宮崎市大字細江	4.6.16 ～4.6.24	県	石川悦雄	300㎡	確認・農業基盤整備
9	丸谷川地区遺跡	都城市丸谷町	4.7.7 ～4.10.30	県	東憲章 松林豊樹	5,000㎡ 水田跡（中世末～江戸末）	河川改修
10	西久保遺跡	高城町大字有水	4.7.2 ～4.7.8	県	面高哲郎	100㎡	確認・農業基盤整備
11	林の王遺跡	国富町大字八代	4.8.24 ～4.9.5	県	飯田博之	50㎡ 縄文時代；土坑、溝状遺構	県道改良
12	上ノ原遺跡	宮崎市大字細江	4.8.10 ～4.8.24	県	石川悦雄	300㎡	確認・農業基盤整備
13	本地原遺跡	えびの市大字原田	4.8.31 ～4.10.16	県	菅付和樹、山田洋一郎、飯田博之	1,140㎡ 弥生時代；花弁状竪穴住居跡1	都市計画街路事業
14	広木野遺跡	五ヶ瀬町大字三ヶ所	4.9.21 ～4.10.27	県	飯田博之	1,500㎡ 古墳時代；竪穴住居跡3（半壊）	都市計画街路事業
15	打扇遺跡	北方町巳	4.9.1 ～4.9.22	県	長友郁子	750㎡ 縄文時代早期；土器、石器	都市計画街路事業
16	住吉村古墳40号横穴	宮崎市大字芳士	4.10.1 ～4.10.2	県	石川悦雄	10㎡	確認

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	面積・時期・遺構・遺物等	備考
17	上妻遺跡	西都市大字妻	4.10.19 ～5.3.31	県	長津宗重	450㎡　弥生古墳時代；竪穴住居跡3軒、奈良平安；柱穴、方形ピット	確認・国衙郡衙古寺跡調査
18	南町遺跡	門川町大字門川尾末	4.10.12 ～5.2.1	県	山田洋一郎 松林豊樹	3,230㎡ 縄文時代後晩期；竪穴住居跡2軒、土坑6軒	国道10号拡幅
19	祇園原地区遺跡	新富町大字新田	4.10.14 ～5.3.19	県	谷口武範 橋本英俊 ほか	4,000㎡　古墳時代；古墳周溝36基、地下式横穴墓4基、石棺1基	農業基盤整備
20	黒瀬戸遺跡	高崎町大字大牟田	4.11.11 ～4.11.18	県	面高哲郎	50㎡	確認・農業水利事業
21	本庄10・12号墳周辺遺跡	国富町大字本庄	4.11.13	県	石川悦雄	40㎡	確認
22	馬場遺跡・古城遺跡	佐土原町大字下田島	4.11.26 ～5.1.22	県	吉本正典	1,000㎡　馬場（中世）土師器、土錘、古城（古代～中世）須恵器ほか	県道改良
23	生駒遺跡	小林市大字南西方	4.12.4	県	面高哲郎	30㎡	確認 広域農道
24	生駒遺跡	小林市大字南西方	4.12.14 ～5.1.22	県	菅付和樹 中村真由美	1,000㎡　縄文時代前～中期；集石遺構3基、轟B式・船元式土器等	広域農道
25	平谷遺跡	日之影町大字岩井川	5.1.11 ～5.3.31	県	飯田博之 松林豊樹	2,600㎡　縄文時代早期；集石遺構5基、弥生時代；竪穴住居跡	県道改良
26	高野原遺跡	田野町甲	5.1.25 ～5.1.27	県	石川悦雄	200㎡	確認・農業基盤整備
27	横谷遺跡	延岡市小野町	5.2.1 ～5.3.26	県	東憲章	370㎡ 貝類（カキ、ハマグリ等）	河川改修
28	田代遺跡群	えびの市大字末永	5.2.22 ～5.2.26	県	面高哲郎	200㎡	確認・農業基盤整備
29	上ノ原第1遺跡	宮崎市村角町末永	4.6.1 ～4.7.31	市	中山豪	4,500㎡ 須恵器、土師器	市道改良
30	下北方古墳1号周辺	宮崎市下北方町塚原	4.8.4 ～4.8.12	市	野間重孝	813㎡ 古墳版築、五輪塔	宅地造成
31	松添遺跡	宮崎市大字折生迫字箸方	4.8.17 ～5.2.16	市	中山豪	4,800㎡　縄文時代後晩期；土壙、土器群	区画整理
32	椎屋形第2遺跡	宮崎市大字細江椎屋形	4.10.15 ～5.1.31	市	長友郁子	4,500㎡ 縄文時代早期；集石遺構72基、炉穴46基、土器	ほ場整備

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	面積・時期・遺構・遺物等	備考
33	山下第2遺跡	宮崎市大字加江田字平畑	4.12.10 ～5.2.23	市	野間重孝	2,800㎡ 縄文時代晩期；住居跡、溝状遺構、土器、石器	区画整理
34	熊野第1遺跡	宮崎市大字熊野	5.2.22 ～5.3.25	市	中山　豪	1,360㎡　弥生時代後期・奈良時代；住居跡、溝状遺構、弥生土器、須恵	市道改良
35	松井坊遺跡	田野町乙	4.6.23 ～4.6.26	町	森田浩史	40㎡ 縄文時代早期；土器	確認・ゴルフ場建設
36	本野遺跡	田野町甲	4.10.16 ～4.12.24	町	森田浩史	8,000㎡ 縄文時代中期；礫群、弥生時代中期；竪穴住居跡13軒	県営農地保全整備
37	高野原遺跡	田野町甲	5.1.25 ～5.1.28	町	森田浩史	40㎡ 地下式横穴墓、縄文時代早期；石皿	確認 県営農地保全整備
38	天ヶ城跡	高岡町大字内山	4.9.7 ～4.9.20	町	島田正浩	400㎡ 中世城跡；土壙	公園整備
39	城ヶ峰遺跡	高岡町大字花見	4.9.24 ～4.10.1	町	島田正浩	40㎡	確認・公園整備
40	天ヶ城跡	高岡町大字内山	4.10.16 ～4.11.6	町	島田正浩	600㎡ 中世城跡；掘立柱建物跡	建物建築
41	穆佐城跡	高岡町大字小山田	4.12.2 ～4.12.14	町	島田正浩	1,000㎡	確認・公園整備
42	穂免越・今平・源六原遺跡	国富町大字八代北俣	5.1.25 ～5.2.27	町	新名祐史	610㎡ 縄文時代早期；土器、石鏃	九電鉄塔建設
43	川原崎遺跡	国富町大字深年	5.3.1 ～5.3.26	町	新名祐史	1,000㎡　縄文時代早期；集石遺構6、配石遺構1、地下式横穴墓2	採土
44	飫肥城下町遺跡	日南市大字楠原字舞鶴	4.4.13 ～4.4.17	市	岡本武憲	160㎡ 玉石垣（3段）溝	国際交流センター小村記念館建設
45	飫肥城跡	日南市大字板敷	4.10.27 ～4.10.30	市	岡本武憲	676㎡ 摺り鉢、配石	文教施設災害復旧
46	上講遺跡	日南市大字星倉	5.3.8 ～5.3.10	市	岡本武憲	165㎡	確認
47	本城地区遺跡	串間市大字本城	4.8.25 ～4.11.16	市	宮田浩二	350㎡ 旧石器～近世	確認
48	西ノ園遺跡	串間市大字奈留	5.2.12 ～5.2.20	市	宮田浩二	38㎡ 縄文時代草創期～後期	確認

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	面積・時期・遺構・遺物等	備考
49	上村遺跡	北郷町大字郷之原甲	4.7.30	町	時元省二	10㎡	確認 町道改良
50	曽和田遺跡	北郷町大字北河内	4.10.15 ～4.10.16	町	時元省二	30㎡	確認 農道改良
51	池之上遺跡	北郷町大字北河内	4.11.5 ～4.12.26	町	時元省二	2,000㎡ 縄文時代中期；住居跡1軒	公園造成
52	天神原遺跡	都城市早水町	4.4.10 ～4.6.10	市	横山哲英	3,104㎡　中近世；溝状遺構、道路状遺構、柱穴、土壙、陶磁器、土師器	建物建築
53	並木添遺跡	都城市高木町	4.4.17 ～4.9.18	市	桒畑光博	12,000㎡　中世；掘立柱建物跡25棟、溝状遺構19条、土壙墓30基	工業団地造成
54	孤東遺跡	都城市平塚町	4.5.7	市	矢部喜多夫	20㎡	確認
55	船ヶ迫・岩立遺跡	都城市五十町	4.5.19 ～4.5.20	市	矢部喜多夫	40㎡	確認
56	久玉遺跡（第5次）	都城市郡元町	4.6.4 ～4.7.31	市	矢部喜多夫	1,454㎡ 中世；掘立柱建物跡、柱穴、土壙、陶磁器	土地区画整理
57	小松尾遺跡	都城市乙房町	4.9.1 ～4.9.4	市	横山哲英	40㎡ 中近世の道路状遺構	確認
58	油田遺跡	都城市五十町	4.9.14 ～4.10.10	市	横山哲英	445㎡　中近世；土壙墓53基、縄文後晩期～古墳初頭の土器、陶磁器	自動車学校施設建設
59	正坂原遺跡	都城市志比田町	4.10.1 ～5.3.2	市	矢部喜多夫	10,000㎡　中世；掘立柱建物跡32棟、溝状遺構1条、土壙墓2基	運動公園造成
60	梅北針谷遺跡	都城市梅北町	4.10.16	市	桒畑光博	6.25㎡	確認
61	上大五郎遺跡	都城市丸谷町	4.10.5 ～5.1.29	市	東憲章	10,000㎡　古代中世；掘立柱建物跡16棟、溝状遺構1条、土壙墓11基	ほ場整備
62	野中第3遺跡	高城町大字石山字野中	4.8.24 ～4.11.30	町	白谷健一	8,000㎡ 古墳時代；住居跡5軒、須恵器、縄文土器	公園整備
63	上原遺跡	高城町大字有水字牧原	4.10.26 ～5.3.13	町	白谷健一 菅付和樹	10,000㎡　縄文時代後期；住居跡8軒、古墳時代；住居跡15軒 ほか	特殊農地保全整備
64	上示野原遺跡	高崎町大字大牟田	4.12.1 ～4.12.24	町	山嵜薫	180㎡ 弥生土器、須恵器、土師器	道路改良

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	面積・時期・遺構・遺物等	備考
65	上示野原遺跡	高崎町大字大牟田	5.2.1 ～5.3.31	町	山嵜　薫	3,000㎡　弥生時代～中世；竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡2軒	工場誘致
66	塚原古墳群（地下式横穴墓）	高崎町大字江平	5.2.15 ～5.2.23	町	山嵜　薫	25㎡ 古墳時代；地下式横穴墓1基（人骨2体、鉄器）	自然崩壊
67	小路ノ下遺跡ほか	えびの市大字西長江浦	4.10.5 ～5.1.30	市	中野和浩	11,000㎡　縄文時代後期；土坑40、平安～江戸初期；遺物10万点	ほ場整備
68	蔵元遺跡ほか	えびの市大字上江	4.11.16 ～5.3.11	市	戸高眞知子	7,600㎡ 平安～近代；柱穴700	ほ場整備
69	勝負遺跡ほか	野尻町大字東麓	5.3.9 ～5.3.25	町	面高哲郎 戸高眞知子	100㎡	確認
70	上長谷遺跡	須木村大字下田	4.4.9 ～4.6.11	村	吉本正典	1,000㎡　縄文時代；集石遺構10基、竪穴住居跡1軒、陥穴状遺構	屎尿処理施設建設
71	須木城跡	須木村大字下田	4.11.30 ～4.12.3	村	面高哲郎	60㎡	確認 遺跡整備
72	尾殿遺跡ほか	須木村大字下田	5.3.2 ～5.3.11	村	菅付和樹	200㎡	確認
73	松本原遺跡	西都市大字清水	4.6.5 ～4.7.6	市	蓑方政幾	180㎡ 弥生時代後期；住居跡、古墳時代；古墳周堀	確認・ニューホープタウン計画
74	上宮第3遺跡	西都市大字三宅字上ノ宮	4.8.10 ～4.11.9	市	蓑方政幾	2,025㎡　平安～近代；溝状遺構10条、掘立柱建物跡2棟、棚列状遺構	配水池建設
75	松本原遺跡	西都市大字清水字仙教	4.11.13 ～4.12.25	市	蓑方政幾	3,450㎡ 縄文時代早期；集石遺構39基、古墳時代；住居跡5軒	ニューホープタウン計画
76	松本原遺跡	西都市大字三納字羽子田	5.1.6 ～5.3.31	市	蓑方政幾	3,750㎡ 古墳～奈良時代；住居跡11軒、須恵器、土師器、埴輪	ニューホープタウン計画
77	平郡遺跡	西都市大字平郡字田中	5.2.5 ～5.2.15	市	蓑方政幾	200㎡ 溝状遺構3条	農村総合整備モデル事業
78	高鍋城跡	高鍋町大字南高鍋字旧城内、大字上江字嶋田	4.11.2 ～4.12.27	町	山本　格	1,100㎡ 江戸時代初期；礎石群、瓦、陶磁器	確認 公園整備
79	高鍋城跡	高鍋町大字南高鍋字旧城内、大字上江字嶋田	5.1.11 ～5.3.29	町	山本　格	360㎡ 江戸時代初期；礎石群、瓦、陶磁器	確認 公園整備

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	面積・時期・遺構・遺物等	備考
80	牛牧古墳	高鍋町大字上江字下耳切	5.2.15 ～5.3.26	町	山本　格	140㎡ 古墳時代；円墳周構	確認
81	牛牧原遺跡外	高鍋町大字上江字牛牧原外	5.3.8 ～5.3.31	町	山本　格	800㎡ 旧石器時代～弥生時代；集石遺構、住居跡	ほ場整備
82	新田原古墳群第65号墳周辺	新富町大字新田字祇園原	4.6.22 ～4.8.14	町	有田辰美	500㎡ 周溝、須恵器	確認
83	高城跡	木城町大字高城字城山	4.11.30 ～4.12.17	町	飯田博之	100㎡ 中近世；山城、石列	時計台設置
84	弥次郎遺跡	川南町大字川南字弥次郎	4.10.26 ～5.2.10	町	島岡　武	1,300㎡ 旧石器時代～縄文時代早期；連穴土壙2、集石遺構10	歩道新設
85	西原遺跡	川南町大字川南字西原	5.1.7 ～5.1.18	町	島岡　武	540㎡	確認 町道新設
86	塩付遺跡	川南町大字川南字住田	5.1.29 ～5.2.2	町	島岡　武	42.5㎡	確認 歩道新設
87	塩付遺跡	川南町大字川南	5.2.12 ～5.2.20	町	島岡　武	60㎡	確認 町道新設
88	松山城跡	川南町大字川南字湯迫	5.2.22 ～5.2.27	町	島岡　武	72㎡	確認
89	森遺跡	都農町大字川北	4.7.6 ～4.8.31	町	吉永真也	2,160㎡ 弥生時代；住居跡1基、中世；溝状遺構1条	土地区画整理
90	延岡城跡	延岡市本小路	4.5.11 ～4.5.23	市	山田　聡	100㎡ 近世；延岡城跡内堀跡、瓦	確認
91	延岡城跡	延岡市本小路	4.7.8 ～4.10.5	市	山田　聡	380㎡　江戸後期登城門跡、番所跡、排水溝跡、平瓦、丸瓦、陶磁器類	確認 門復元
92	吉野町20号古墳裾	延岡市吉野町	4.6.1 ～4.6.10	市	山田　聡	10㎡ 古墳時代；舟形石棺1基	倉庫改築
93	横谷遺跡	延岡市小野町	4.10.19 ～5.1.21	市	山田　聡	1,300㎡　縄文時代晩期；突帯文土器、黒色磨研土器、貝類、獣骨 ほか	市道改良
94	黒土田遺跡	延岡市細見町	4.11.4 ～4.11.7	市	山田　聡	50㎡ 縄文土器、須恵器、土師器	確認・土地区画整理
95	吉野遺跡第2地点	延岡市吉野町	4.10.15 ～4.10.16	市	山田　聡	5㎡	畑地復旧

番号	遺跡名	所在地	発掘期日	主体	調査員	面積・時期・遺構・遺物等	備考
96	東草場遺跡	日向市大字富高字古城ヶ鼻	4.11.4 ～継続 5年8月迄	市	緒方博文	5,700㎡　旧石器～中世；集石25、竪穴住居跡4、掘立柱建物跡4　ほか	近隣公園整備
97	比良山古墳	日向市大字財光寺	4.12.21 ～4.12.25	市	緒方博文	200㎡ 前方後円墳の周溝を確認	確認
98	南町遺跡	門川町大字門川尾末	4.7.1 ～4.8.6	町	長友郁子	960㎡　縄文時代後～晩期；縄文土器	土地区画整理
99	江田城跡	門川町大字加草	4.10.19 ～4.12.1	町	窪田麗子	5,958㎡ 中近世；横堀1、青磁碗	町道改良
100	広瀬田地区遺跡	東郷町大字山陰字広瀬田	4.10.5 ～4.10.16	町	北郷泰道 山田洋一郎	100㎡ 古墳時代；竪穴住居跡2軒、縄文土器	農業基盤整備
101	速日峰地区遺跡	北方町巳	4.8.1 ～4.9.30	町	小野信彦	1,000㎡ 古墳時代住居跡1軒 五輪塔及び石塔50基	ほ場整備
102	中野内遺跡	北浦町大字古江字中野内	4.7.13 ～4.11.18	町	吉本正典	9,500㎡ 弥生時代；竪穴住居跡2軒 古墳時代；竪穴住居跡9軒	農業基盤整備
103	岩戸五ケ村遺跡	高千穂町大字岩戸字才原	4.5.11 ～4.5.15	町	北郷泰道	対象面積 12,000㎡	確認・温泉開発
104	岩戸五ケ村遺跡	高千穂町大字岩戸字才原	4.7.22 ～4.11.13	町	戸高眞知子	5,500㎡　縄文時代；集石遺構、礫群、弥生時代；竪穴住居跡2軒	温泉開発沖田川

平成4年度発行文献等

各時代にわたるもの

宮崎県総合博物館埋蔵文化財センター「宮崎の遺跡1982－1991」

宮崎県教育委員会「吾平原第2遺跡・宮ノ前第2遺跡・城ノ平遺跡－国道218号線高千穂バイパス建設関係発掘調査報告書－」

宮崎県教育委員会「宮崎県文化財調査報告書」第36集

宮崎県教育委員会「蔵元遺跡・時屋地区遺跡・細井地区遺跡・速日峰地区遺跡・中野原地区遺跡・都城盆地地区遺跡・丸谷地区遺跡・中尾牛牧地区遺跡・元野地区遺跡－平成4年度農業基盤整備事業に伴う発掘調査報告書－」

都城市教育委員会「丸谷地区遺跡群上大五郎遺跡発掘調査概要報告書」『都城市文化財報告書』第22集

田野町教育委員会「元野地区遺跡（本野遺跡・高野原遺跡）－県営農地保全整備事業元野地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概要－」

高岡町教育委員会「高岡町内遺跡発掘調査報告書」『高岡町埋蔵文化財発掘調査報告書』第3集

高岡町教育委員会「高岡町遺跡地図」

清武町教育委員会「角上原遺跡群Ⅱ」『清武町埋蔵文化財発掘調査報告書』第5集

都農町教育委員会「森遺跡－中部土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」『都農町文化財発掘調査報告書』第5集

延岡市教育委員会「平成4年度市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」

高城町教育委員会「上原遺跡」『高城町文化財発掘調査報告書』第2集

えびの市教育委員会「長江浦地区遺跡群　役所田・小路ノ下遺跡－長江浦地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要－」

西都市教育委員会「西都原古墳研究所年報」9号

日南市教育委員会「日南市遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ酒谷・吾田・油田・細田地区」『日南市埋蔵文化財発掘調査報告書』第2集

串間市教育委員会「市内遺跡発掘調査概要報告書　本城地区遺跡・西ノ園遺跡」

縄文時代

北郷町教育委員会「平成4年度埋蔵文化財調査報告書」『北郷町文化財報告書』第2集

宮崎県教育委員会「上山ノ丸遺跡・北ノ迫遺跡・小丸遺跡－県道宮崎～北郷線地方道特別改良1種工事に伴う発掘調査報告書－」

弥生時代

西都市教育委員会「上宮第3遺跡－上宮配水池建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」

高崎町教育委員会「朴木遺跡」『高崎町文化財発掘調査報告書』第4集

古墳時代

宮崎県教育委員会「崩先地下式横穴墓群－県営広域営農団地農道整備事業沿海南部地区串間市七ツ橋工区工事に伴う埋蔵文化財調査報告書」

小林市教育委員会「東二原地下式横穴墓群・下の平地下式横穴墓群」

宮崎市教育委員会「史跡蓮ヶ池横穴群－保存環境整備事業報告書」

宮崎市教育委員会「浄土江遺跡Ⅱ」

歴史時代（古代～近世）

宮崎県教育委員会「国衙・郡衙・古寺跡の範囲確認調査概要報告書Ⅱ」

門川町教育委員会「江田城跡－加草～枝橋線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－」『門川町文化財発掘調査報告書』第1集

えびの市教育委員会「原田・上江地区遺跡群・蔵元・法光寺・中満遺跡－上江・池島地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要－」

宮崎県文化財調査報告書

第37集

平成6年2月

発　行　　宮崎県教育委員会

編　集　　宮崎県教育庁文化課